



THE EIKO ALUMNI 89

2018年4月2日発行 ©2018 発行人:栄光学園同窓会・山田宏幸 編集人:高橋英治 印刷所:ナガシマ印刷工房
発行元:栄光学園同窓会 〒247-0071 鎌倉市玉縄4-1-1 ☎0467-44-8875 <http://www.eikoalumni.org>

66期生が卒業 173名が新会員に！

2018年3月1日、栄光学園第66期生の卒業式が行われ、同窓会に新たに173名が加わりました。祝賀会では同窓会を代表して山田会長より祝辞を述べ、卒業生に「同窓会入会案内」と「EACON入門(操作手順説明並びにID、パスワード)」を配布するとともに記念品としてウッ드의シャープペンを贈呈しました。

シャープペンにMEN FOR OTHERS WITH OTHERSと同窓会ホームページのURLがプリントされています。

5月12日(土)、13日(日) 栄光祭開催

〈追悼ミサ〉

栄光祭1日目、5月12日土曜日の午前9時30分より、栄光学園聖堂にて、この1年の間に亡くなられた教職員、卒業生の皆様の追悼ミサを行います。亡くなられた教職員は、G.ブルカ先生(英語)、菊野俊熙先生(漢文)、岡野公二郎先生(5期、数学)の3人の先生方です。

亡くなられた卒業生は同窓会に連絡のあった1期から30期までの30名の方々(2018年2月末時点)です。

追悼ミサ後、アロイジオ会館ホールにて、故人を偲ぶお茶会も予定しています。なお、平服でお出かけください。

〈同窓会定期総会のお知らせ〉

2018年5月12日12時より栄光学園アロイジオ会館において2018年度同窓会定期総会を行います。各期委員並びに支部委員の皆様の出席をお願いいたします。昼食は用意します。

〈OBの部屋 ALUMNI〉

栄光祭開催中の両日、今年もOBの部屋ALUMNIを開きます。会場は聖堂ホールです。お飲みもの、お菓子、サンドイッチを提供しておりますのでどうぞお寄りください。

同窓会ホームページリニューアル

同窓会ではホームページのリニューアルに向けて特別委員会を開いて公開の準備を進めています。(6ページ記事をご参照ください。)

これまでの担当者ひとりがウェブサイト进行管理するスタイルから、専門業者に管理を委託する方針にあらためました。これにより皆様から頂いた記事のホームページへの掲載が速やかに行われるようになります。あわせて、デザインやメニューの構成も一新いたします。

5月12日の総会においてリニューアルされたホームページをご紹介できるよう計画しております。具体的な新旧ホームページの切り替え日程が明らかになりましたら現行ホームページ上でご案内する予定です。

また、ホームページのリニューアルに伴い、掲載される記事についても、拡充を図ってまいります。これまでの掲載記事を引き継ぐとともに、まずは栄光学園公式Facebook投稿を同窓会ホームページにも転載いたしますので学園のリアルタイムの話題をご覧いただくことができますようになります。新たな記事の企画も行ってまいりますので、ホームページをご覧いただくのみならず、ぜひ同窓生の身近な話題についてご寄稿いただければと思います。

<u>主な目次 No.89</u>			
学園からのメッセージ	2	OB便り	15
同窓会会長挨拶	2	同期会	18
同窓会活動	3	支部活動	24
特別委員会報告	6	歴史文学散歩	31
母校の様子、恩師の思い出など	12	訃報・お知らせ	34

栄光学園中学高等学校長 望月伸一郎

栄光学園同窓会会長 山田宏幸（30期）

同窓会のみなさまには日ごろより学園の教育活動についてご理解とご支援をいただき、心より感謝申し上げます。特に70周年事業の募金に多大なるご寄付を賜りましたこと、あらためて御礼申し上げます。

昨年4月に竣工した新校舎で教育活動を始めてから一年になりますが、ここで毎日を過ごしている私たちにとっては「まだ一年しかたっていないのか」というのが実感です。一年を通じてみると、夏も冬も、空調にそれほど頼らなくても生活できる快適さを味わっています。卒業生のみなさまのお力添えで、本当に良い校舎をいただいたと思います。本当にありがとうございました。

1月10日には栄光学園と同じくイエズス会教育機関であるボストンカレッジの副学長、ケーシー・ボーミーエ神父様が栄光学園を訪問し、高校生の英語授業も担当して下さるなど、生徒たちや先生方との懇談の機会をいただきました。同大学で毎年8月に全米の高校生を対象に行われる研修プログラムに栄光学園からも30名ほどの高校生が参加させていただき、今年で3年目になりますが、栄光の生徒たちの熱心さに感心して下さり、来日しての訪問を希望されたとのことです。今後もこのプログラムをきっかけに、イエズス会教育機関の国際的なネットワークを少しずつでも広げたいと考えています。

2016年に栄光学園を含め日本のイエズス会教育機関の各法人が合併して上智学院となりましたが、その上智学院の理事長が今年4月に交代いたしました。理事長職を20年近くにわたって勤めておられた高祖敏明神父様にかわり、神学部教授の佐久間勤神父様(イエズス会)が新たに理事長に就任いたしました。佐久間新理事長は六甲学院の卒業生でもあります。

法人としては合併しても、各教育機関の教育方針はそれぞれの独自性を大切にしていきます。栄光学園も伝統を引き継ぎながら、さらに新しい試みも加え、80周年90周年にむけてますます発展していきたいと考えています。

OBゼミや進路ガイダンスなどでは、毎回、卒業生の方々にご登壇いただき大変に貴重なお話をうかがっており、在校生にとってもよい教育の場を与えていただいています。今後はぜひ同窓会と学園とがコラボレーションして、お互いにとって実りとなる機会を作り上げてまいりたいと考えています。今後ともなにとぞよろしくお願いいたします。

母校栄光学園の創立70周年事業は、2018年3月末をもって無事完了しました。会員の皆さまの多大なるご協力、ご尽力により、すでに昨年の4月からは新校舎で後輩たちが学園生活を満喫、謳歌しています。募金は、本年2月末時点で同窓会として2億4千万円を大きく超え、全体では約4億4千万円となりました。当初同窓会としては2億円を目標にしていたので、この目標を大きく超えることが出来ました。これは、ひとえに皆様方のご協力、母校への想いの賜物であり、改めて栄光同窓生の母校愛に驚嘆し、母校との絆の強さ、太さを感じたところです。

同窓会の会務などもありますので、私はたびたび母校を訪れ、新校舎を体感するのですが、春夏秋冬、四季それぞれの風景があり、何時も周りの環境に校舎と人が溶け込む一体感を感じます。本当に開放感に溢れ、いつも明るく、空がとても広く感じる素敵なお建物です。この校舎は建築業界でも話題になっているようで、「2017年度グッドデザイン賞」と「第61回神奈川建築コンクール一般建築部門優秀賞」を見事に受賞しました。5月12日(土)13日(日)には、第71回栄光祭が開催される予定です。まだ、校舎をご覧になっていない方はもちろん、すでにご覧になっている方も、是非栄光祭などの機会を利用し、校舎と学園の風景を体感されよう、ご案内いたします。お越しの際は、“OBの部屋ALUMNI”にもお立ち寄りください。

さて、昨年5月に同窓会長にご選出いただき、あっという間に1年が過ぎようとしています。「人を繋ぐ、人が繋がる同窓会」というコンセプトのもとスタートしましたが、まずこの1年のうち夏頃までは70周年事業を中心に同窓会事業を進めさせていただき、おかげさまでOBフォーラム“限研吾塾”、横浜みなどみらいでの記念コンサートやパーティーなどを盛大に実施することができました。

70周年事業が一段落した秋口からは、積年の同窓会諸課題を解決する目的で設置した「特別委員会」での検討を中心に、足元を固めるべく同窓会事業を進めてきました。まず、取り掛かったのは、「ホームページやALUMNIなどの広報媒体のあり方、具体的な手法検討」のホームページの整備です。ホームページの構成、内容、管理運営方法などを見直し、5月頃には新たな同窓会ホームページをご利用いただけるよう、現在準備を進めているところです。器はリニューアルされますが、ホームページで最も大切なのは内容と情報の更新です。会員のニーズに合致したコンテンツの掲載とタイムリーなデータ更新が大変重要になります。コンテンツという意味では、学園アーカイブの整理なども重要な

課題です。会員の皆さまで、ホームページの運営、アーカイブの整理などに参加してみようという方は、是非ご協力いただければと思います。

3月1日には学園の卒業式が行われ、同時に66期生173人を新会員として迎えることとなりました。今後も、同窓会活動をより充実させるよう、提起した諸課題に取り組み、一歩ずつ進んでまいります。母校が70周年という節目を迎えた今、同窓会も新たなステージを展開していく必要があります。栄光学園卒業生のDNAを継承しつつ、より広い視野でグローバルに“Men for Others, with Others”を実践できるよう、学園、兄弟校同窓会などと協力しながら、躍動感あふれる同窓会にしていければと思います。同窓会会員の皆さまには、より一層積極的に同窓会活動にご参加いただけますよう、よろしくごお願いいたします。

同窓会活動

各部2017年度事業報告と2018年度事業計画

総務部

総務部長 青木嘉光（10期）

【1】2017年度事業報告

2017年度の総務部は、同窓会がずっとかかえてきた「ひと」、「もの（情報）」、「かね」に係る各部共通の諸課題を議論するため設置した特別委員会”繋がるプラットフォームP/T”の取り纏め役としての活動が中心であった。

また、11月4日に開催したイエズス会校同窓会連絡会（JJHAF）では、本年度の幹事同窓会として準備にあたり計画通り実施した。（いずれも、詳細は別途記事に記載）

【2】2018年度事業計画

2018年度、総務部は、前年度に引き続き特別委員会”繋がるプラットフォームP/T”の取り纏め役として、各部と連携して諸課題解決に取り組む。総会后リリースされるリニューアル・ホームページのフォローアップ、実践力のある人材の発掘、事業と費用の見直しなどの継続課題について更にいっそう議論を深めていく計画である。

そのほか、2016年度に改訂施行した新会則について、一部見直しの要望が出ているので、適宜対応していくことを考えている。

また、本年度のイエズス会校同窓会連絡会（JJHAF）は、六甲学院伯友会で開催される。昨年度に提案された姉妹校コラボ企画の検討・実施に関し、事業部に協力して動く必要が出てくることを想定し活動計画に加えている。

財務部

財務部長 近藤良介（45期）

【1】2017年度事業報告

会費請求については、口座振替に移行済みの会員に対して当年度分2,500円の引き落としを実施した。また、振り込みで納入している会員については、第4グループ842名を対象に、4年分（未納がある場合には8年分）一括振り込みの郵便振替の案内を送付した。さらに、前年度までに請求した第1、第2及び第3グループのうち未納の会員3,227名にも再度納入を依頼した。

当年度は、各種イベントの参加者で会費が未納である会員について積極的に納付をお願いする等、地道な会費納入依頼活動を実施した。その結果、会費納入率は目標の50%には届かなかったものの47.0%と前年よりも2.0ポイント上昇し、口座振替利用率も26.4%と前年度よりも0.8ポイント上昇した。一方で、年度の収支については2017年度も引き続き経費の節減に努めたものの、大成功であった創立70周年記念イベントのコストの影響が大きく、赤字となる見込みである。

また、当年度は中長期的な視点に立ったより健全な収支モデルの構築のため、会費以外の他の収入源について検討も行った。広告掲載がなじまないと考えられるALUMNIではなく、リニューアルを計画している同窓会HPに広告を掲載していくことを引き続き検討していくこととした。

【2】2018年度事業計画

会費納入については、前年度から引き続き会費情報のデータベースを利用して、同期会、支部及びOBフォーラム等各種イベントの参加者で会費が未納である会員について積極的に納付をお願いし、納入率50%超を目指していく。

また、予算策定のさらなる精緻化、すなわち各種のイベントや支部活動の支援等、コストを掛けるべきところに重点的に予算を配分し、ムダを省き節約をすべきところは可能な限り予算を削るという方針を徹底する。そして、予算と実績の比較分析結果を翌期以降の予算策定に生かすことにより、より健全な収支モデルを構築していく。

事業部

副会長兼事業部長 増木洋介（30期）

【1】2017年度事業報告

2017年度は例年実施しているOBの部屋、文学歴史散歩、OBゼミ講師派遣に加え、創立70周年事業の位置づけで、OBフォーラム（隈健吾塾）、記念コンサート、記念パーティーを開催しました。

【2】2018年度事業計画

2018年度においては、通常の事業活動を着実に実施し、会員相互の交流活性化をはかります。

また、兄弟校交流の企画も模索してまいります。

広報部

広報部長 高橋英治（28期）

【1】2017年度事業報告

同窓会報The Eiko Alumniは第88号を10月中旬に、第89号を2018年4月上旬に発行した。

ホームページは9月以降機材トラブル等があり、記事の更新が1月まで停止してしまい、記事をお寄せいただいたり、閲覧された同窓生の皆様にはご不便をお掛けしたことをお詫びいたします。

EACONへのアクセス数は年間で1700件ほど記録されており、すでに卒業式を終えて間もない66期の方のプロフィール変更も行われ始めている。

【2】2018年度事業計画

The Eiko Alumniは10月上旬に90号、2019年4月上旬に91号を発行予定である。

ホームページは特別委員会からの報告記事にある通り2018年5月にリニューアルを行う。ホームページの管理業者には同窓会が送付した原稿の体裁を整えて掲載する業務を委託する。また、掲載する記事についてはリニューアルに伴いOBへのインタビュー、学園アーカイブの写真などの紹介とそれらの経緯をご存知の方への情報提供依頼などを考えている。また、これまで同期会、支部会の活動報告が主流であった寄稿についても、ホームページ記事の収集を積極的に行っていただく委員を募り、新たな話題を提供してもらうことを計画している。

同窓会のFacebookページをホームページに転載して投稿を受け付ける機能も検討している。

EACONの運用については名簿機能を中心に継続して運用を推進する。

活動サポート部

活動サポート部長 島崎裕之（26期）

【1】2017年度報告

1. 各期活動支援

同期会開催促進に関する支援を推進し、活動状況の情報収集に専念した。同窓会が把握する限りでは、計17の期が同期会やゴルフコンペ等のイベントを開催した。このうち開催報告の投稿は5回のイベントから行われた。年代としては50歳以上の活動は活発であるのに対し、働き盛りの30～

40歳代の活動の声が少ないという傾向は変わらない。

2. 支部活動支援

現有の支部活動状況を情報収集、新支部の立ち上げを促し支援した。2017年度当初時点では、部活動のOB会が10支部、地域のOB会が6支部、企業・業界等のOB会が12支部の合計28支部があり、同窓会の把握では、16回の活動が行われた。このうち開催報告の投稿は12支部から行われ、8支部が補助金申請を行った。その他支部認定されていない団体においても2団体からの活動実施情報をいただいている。

2016年度より支部設立準備を始めた『北海道栄光会』が支部への申請を実施・認定され、29支部（地域支部では7支部）となった。

3. その他活動グループ支援

『母校創立70周年記念』の第二弾として8月27日に前年と同じよみうりゴルフ倶楽部で開催されたオール栄光ゴルフコンペは、29組113名の参加があった。2年連続100名を超える動員で大成功を収め、イベントとして定着した。

4. 社会貢献活動

本年度も東ティモールイエズス会校への支援を行った。

【2】2018年度計画

同窓生同士の縦横の繋がりを連携させるべく名簿データを精査し、情報の共有化を拡大させ、活動をサポートしていく。各期・各支部等の活動を活性化させていく。

(1) 各期活動支援

同窓生の『横の繋がり』の強化策として、各期幹事とのコミュニケーションを図り、活動実績を同窓会に報告するよう促す。引き続き、人脈を拡大すべき年代でありながら活動が停滞気味の『働き盛り・子育て世代（30～40歳代）』を重点的に活性化すべく策を講じる。

(2) 支部活動支援

同窓生の『縦の繋がり』の強化策として、部活動・地域・職域業界等の新規支部の立ち上げ、活動の継続性が弱い支部の再活性化を図る。北海道に続き、首都圏外・海外の地域活動を推進するため、同窓生の地域分布データを精査・提供することにより、『身近な同窓生』と繋がるよう促し、合わせて既に活動中の組織の支部申請を推進する。

(3) その他活動グループ支援

昨年に続き、本年8月26日（日）によみうりゴルフ倶楽部で開催される『オール栄光ゴルフコンペ』を後援する。各ネットワークを活用し、開催に向け動員等を支援する。併せて、機会を利用し、各期・支部組織活性化等にもつなげていく。

(4) 社会貢献活動支援

引き続き、東ティモールイエズス会校への支援などの社会貢献活動を行っていく。

第35回イエズス会校同窓会連絡協議会(JJHAF)のご報告

総務部長 青木嘉光 (10期)

第35回イエズス会校同窓会連絡協議会(JJHAF)が、栄光学園同窓会の主催で、11月4日(土) 14:00から16:30まで、アロジオ会館2階会議室で開催された。出席者は六甲伯友会から会長、副会長、事業委員会委員長、広島学院翠友会から会長、事務局長、上智福岡泰星会から会長、関東支部長、栄光学園同窓会から会長、副会長、事務局長、各部部长。また協議会に先立ち、13:00から13:50まで、林副校長のご案内で、栄光学園新校舎の見学会を行った。

会議は、主催者である栄光学園同窓会山田会長の開会の辞で始まり、次いで栄光学園中学高等学校 望月校長にご挨拶いただいた。望月校長からは、「昨年4月に、イエズス会校4校と上智大学の法人合併が行われ上智学院となった。以来、毎月1回は4校の校長が四谷に集まって話し合いを持っているが、連携が大切な課題になってきている。4校の間は勿論、上智大学との連携、さらに言えば世界全体のイエズス会校のネットワークをこれからどうやって築いていくか。世界でのジェズイット減少の中で、これからイエズス会校としてのアイデンティティを保ち、発展していく為には、NETWORKが重要なキーになる。そしてまた、学校と同窓会との繋がりと言うのもますます重要になっている。」と言うようなお話があった。

続いて、各校参加者の自己紹介があり、テーマの話し合いに移った。テーマは①各校の近況報告と②従来の議題(同窓会事業、名簿、会費、広報など)から少し視野を広げた意見交換の二つ。各テーマでの各校の意見は概略、以下の通りである。

各校の近況報告(同窓会事業、名簿、会費、広報など)

栄光学園同窓会

山田会長から、配布レジメに基づいて、①学園創立70周年事業と募金活動、②事業部の活動プログラム、③活動サポート部の活動、④会員名簿のWEB化、⑤ホームページのリニューアル、⑥改訂同窓会会則の施行、⑦その他の課題について報告。

広島学院翠友会

会長からの報告。翠友会には関東支部、関西支部、中部支部、九州支部、四国支部と、北海道、東北を除いて、5つの地域支部がある。今年度、本拠地の広島に中国支部を立ち上げ、第一回会合に230人程が集まった。会員名簿は、2年に一回発行している。昨年12月に発行。今後は、財政面の負担を考え、3年に一度にすることを考慮中である。

上智福岡泰星会

会長と関東支部長からの報告。6年前に男女共学校になって、来年初めての女子卒業生が同窓会に入ってくる。卒業生は10,000人、名簿発送は4,000人。理事会は2か月に1回開催。常勤事務員がいないので、来年あたりから採用を考えている。また、関東支部は2,000人位、同窓会には200人程度が出席する。

六甲伯友会

会報「伯友」を持参し、会長、副会長、事業委員会委員長より報告。会長から、今年度は3年に一度の役員改選期、全員留任となった。7月に東京丸の内で行われた東京支部懇親会は200名を超える大盛会となった。伯友会は来年が75周年になる。いま記念事業を企画。事業委員会委員長より、会報「伯友」を参照しながら、財政状態などの詳細な説明があった。また昨年立ち上げた奨学金は、一年が経ち順調に積み上がっていると。

従来の議題から少し視野を広げたテーマでの意見交換等

ア 世代間の連帯感を生み出す工夫、行事の企画など

イ 4校同窓会(+ソフィア会)の連携、合同イベントなど(法人合併を踏まえ)

ウ イエズス会校としての伝統や精神を継承するための工夫、母校との協働など

エ その他(昨年度までの協議内容など)

従来からの各校の同窓会事業や名簿などに関する話題の他、少し視点を広げた上記4つのテーマでの意見交換を行った。「4校の一つの共通のテーマはイエズス会と、カトリック信者、だから、この切り口でまずやってみる。これが共通のテーマ」とのご意見が出たが、合同イベント等については、アイディアは出たものの、やや時間が足りず、議論を深めるまでには至らなかった。

栄光学園同窓会

高校1年生への高1ゼミの延長線上で、世代間を超えた企画としてOBフォーラムを実施し、毎回100人程度が参加している。

上智福岡泰星会

東京福岡県人会というサロンがあり、毎月第1木曜日に諸々のテーマで会を実施。毎回20~30人参加。県人会のイベント部が事務局を行っている。

広島翠友会

高校1年生の進路指導として、関東のOB在勤企業の訪問を行っている。教師引率で、8月初旬に30人程度の広島学院生徒が訪れるが、少々手詰まり感が出てきており、たとえば、在京の栄光OBの企業などを訪問することは出来ないか。また、職域で4校合同イベントを行うのが、テーマが明確で、ターゲットも的を絞れ、試みとしてはハードルが低いのではないかと。

六甲伯友会

来年は同窓会75周年を迎え、六甲学院で全25コマの講演を行うといった企画を進めている。たとえば、4校共通のテーマで講演を行ってみたいかどうか。

会議終了後、横浜中華街へ移動、17:30から懇親会を行った。懇親会には、上智学院高祖理事長、ソフィア会戸川会長も御来賓としてご出席。冒頭、高祖理事長からは「四校同窓会と上智ソフィア会の結び付きの強化、そしてイエズス会学校の卒業生の繋がりを世界に向けて広げていきたい」とのお話が合った。その後、終始和やかな雰囲気の中で歓談が行われ、19:30分に散会となった。今回は設立75周年を迎える六甲伯友会で開催される。

身近な同窓生を探そう

活動サポート部長 島崎裕之（26期）

現在、同窓会の地域支部は、横須賀・逗葉・鎌倉・藤沢・茅ヶ崎といった母校の『お膝元』では活発に活動していますが、首都圏外では昨春北海道が設立されました。同窓生は確かに首都圏に集中していますが、その他の方々は国内各地、そして世界各国で活躍されています。

同窓会の支部となっていない地域でも、静岡・岡山・ニューヨーク・バンコク・北京といった地域で集まっているとの情報もはいつています。また同期の中で、それぞれの地域で集まるといった事は多々あるのではないかと思います。

一方六甲伯友会・広島学院翠友会・泰星会(上智福岡)といった国内イエズス会兄弟校同窓会は『関東支部』があり、活発に活動しているようです。

なかなか本部のイベントや集まりに参加するのが困難な首都圏を離れた同窓生の皆様方には、是非地元での活動を楽しまれてはいかがでしょうか。特に転勤や進学で初めて首都圏を離れたり、海外に行かれた同窓生にとっては、母校の同窓生に迎えられると不安も払拭するものです。

活動サポート部では同窓生の地域分布調査に着手しております。その為には、住所移転された場合、皆さんより同窓会に通知いただくことが重要です。名簿を確認すると、ご実家の住所のままになっていると見られる同窓生がまだ多いのではないかと感じますが、進学～就職～転職といった節目に、是非とも同窓会にご通知いただきますようお願いいたします。

今後、データを精査し、同窓生地域分布情報を提供したいと考えております。地域支部の設立や活動活性化に対し、同窓会は支援を惜しみません。ただ主体となるのはその地域にいらっしゃる同窓生皆さんご自身です。今後益々各地で同窓生が集まり、楽しく有意義な活動が行われることを願っております。

特別委員会報告

「繋がるプラットフォームP/T」活動状況のご報告

総務部長 青木嘉光（10期）

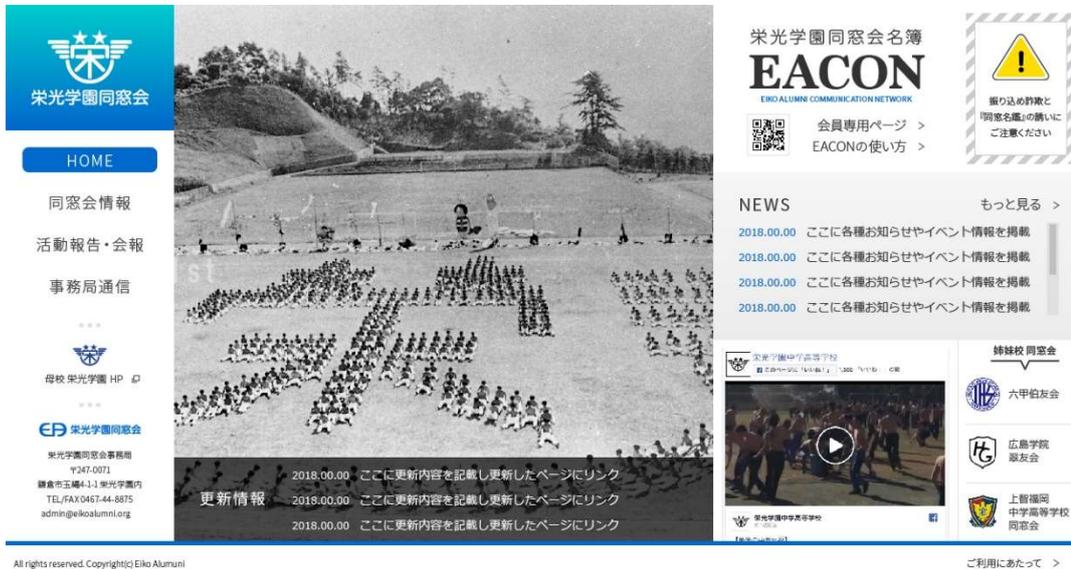
本特別委員会は、「人を繋ぐ、人が繋がる同窓会」と言う新会長のコンセプト具体化のため、同窓会が長年抱えている「ひと」、「もの(情報)」、「かね」に関する諸問題の解決を目的に昨年7月に設置された(詳細経緯はアラムナイ88号ご参照)。それ以降毎月会議を重ねて来ているが、現在までの活動状況をご報告申し上げます。

7ページ上部の画像はホームページ・リニューアル後のトップページの現時点(2月)でのイメージである。特別委員会ではまず、「人を繋ぐ、人が繋がる同窓会」のプラットフォームの役割を担うホームページの整備から着手。議論が進むにつれ、整備作業費に関連し同窓会財政の見直し、更に再編後の編集、企画等に携わる実働人材不足の解消策など、「ひと」、「かね」の問題にまで検討が広がって来ている。昨年9月の第一回特別委員会から、今年2月の第六回までで議論され、実行されたポイントは次に詳述する通りである。今後は5月総会をGOALに置き、サイトマップ(10ページのサイトマップ案ご参照)に載せるコンテンツの制作、拡充をし、ホームページ全体のデータを纏めると共にリニューアル後の編集や更新の体制整備へと、「ひと」や「かね」の検討を含めた議論を続けて行くことになる。

【1】なぜ、まずホームページのリニューアルなのか？

最近のホームページのアクセス数は停滞気味、EACONもパスワードを持つ会員が全体の2割にも満たないという状態。昨年の総会では、ホームページやEACONの使い勝手の悪さに多くの意見が出された。「人を繋ぐ、人が繋がる同窓会」のコミュニケーションツールとして、改善が喫緊の課題ということが共通認識となってきている。

現状の不满	実施済/実施予定の改善策
・沢山の記事はあるが、非常に見づらく、読みたい記事になかなかたどり着けない。	⇒ ・メニュー・サブメニューで統合し見やすく整理中(末尾サイトマップ)
・形式・格調が整っていない。	⇒ ・会長挨拶、同窓会の沿革、会則などHPとして最低限の形式は整えた。
・会員相互のコミュニケーションツールとしての機能が不十分。	⇒ ・FACEBOOKの活用を今後考える。
・EACONとの連携の悪さ。	⇒ ・EACONは名簿機能に特化させる方針で作業を進めている。



ホームページリニューアル後の画面イメージ

ムページ)

(3) 今後の特別委員会のスケジュール(工程表)を決める

第2回特別委員会(10月21日)

(1) リニューアル作業委託候補先の企画・提案書について

(2) リニューアル費用と同窓会の財務状況について

(3) 年間行事一覧と関連費用について

第3回特別委員会(11

月25日)

(1) (株)イメージサイエンスからの提案(10月21日)についての検討

(2) イメージサイエンスとの契約書、見積書について

第4回特別委員会(12月16日)

(1) 常任委員会への報告、審議事項の確認

(2) (株)イメージサイエンスとの契約書について

(3) 2018年1月以降5月総会までの工程表の再確認

第5回特別委員会(1月14日)

(1) 常任委員会で議論された特別委員会関連の事項について

(2) 記事の編集、コンテンツ内容について、色々なアイデアの検討

第6回特別委員会(2月10日)

(1) 再編成後のトップ・ページとサイトマップへの要望事項について

(2) コンテンツの企画、編集について(続)

② 特別委員会での議論のポイント

第1回特別委員会(9月9日)

(1) まず、前回2013年6月に設置されたホームページリニューアルWGの活動を総括。このWGは「同窓会HPリニューアルの最終目標として、会員名簿のWEB化と会費徴求・管理業務のWEB化をめざし、現在のHPサイトの記事は、新HPサイトに移し、最終的に現在のHPサイトは廃止する」としてスタートしたが、10月に活動体制を、①現行HPのリニューアル担当と②現行HPからリンクされる、会員情報管理サイト(EACON)担当の2つに変更、結果として現在の同窓会HPとEACONの二本立てになっている。

(2) 次に、現行ホームページの画面を閲覧、兄弟校同窓会(六甲伯友会、広島学院翠友会、上智福岡泰星会)のホームページを参考に、画面の構成、FACEBOOK等の利用、

(詳細【4】特別委員会の活動記録②の第一回特別委員会をご参照)

【2】リニューアルは何に重点を置いて進めているのか？

まず、会員が見やすく、使い勝手の良いようにメニュー・サブメニューを再編成すると共に、不足している基本情報を加え格調を持たせHPらしく形式を整えること。次に、会員のコミュニケーション手段としての機能を拡充し、多くの会員が興味を持ち、参加ができるようなコンテンツを企画、編集すること。更に、日常の更新がタイムリーになされるような運営体制を構築していくこと。これらを重点目標に作業にあっている。

(詳細は【4】特別委員会の活動記録②をご参照)

【3】特別委員会の構成メンバー

この特別委員会が対象としている課題は同窓会が長年抱える大きな問題である。その為、会長、副会長、事務局長、各部部长が揃ってメンバーとして参加している。

その他、ITリテラシーを有する人材として比較的若い年代からも加わってもらった。

内藤文樹(32期常任委員)、大須賀喜彦(39期委員)、米村俊彦(43期常任委員)、石田明久(51期常任委員)

なお、現在のホームページの運営管理を担当している蓮沼明・17期常任委員にオブザーバーをお願いしている。

【4】特別委員会の活動記録

① 特別委員会での議論

第1回特別委員会(9月9日)

- (1) 現行ホームページに至る経緯と現状の再確認
- (2) 今後の検討課題の整理 (参考:兄弟校各校のホー

姉妹校各校ホームページの特徴

学校	栄光学園同窓会	六甲伯友会	広島学院聖友会	上智福岡泰星会
特徴	目次の内容はほぼ全部を網羅 ただ、雑多で見ずらい メニュー・サブメニューでの整理必要 会長挨拶なし 同窓会の沿革なし 会費についての記載無し EACONの名簿機能は利用価値大	新着の掲載は、こまめにやられている メニューからサブメニューはプルダウン ピックアップニュースで新着をハイライト ツイート、いいね、G+, シェアなど ログインでいつでも参加出来る 六甲伯友会とは 1943年からのあゆみの掲載 会長挨拶 伯友会費 会費納入のお願い 会員には会費納入の義務があります。 会費は伯友会にとって重要な収入であり 伯友会運営にとって貴重な財産です。 未納の方は是非納入してください。 宛名ラベル 住所、氏名 期、番号、2015(納入状況) 住所変更届の詳細説明、記載あり 青春時代の思い出 校歌のDVD リンク集 35期や43期のフェイスブックがある 事務局の執務時間の記載 総会・懇親会のお知らせ 出席予定者リストの添付がある 同期会だより 各期過去の投稿リストがある クラブOB会・同好会 過去の投稿リストがある 支部便り 支部別に過去の掲載リストあり 寄稿・紀行・聴こう欄 投稿者の自由投稿記事 投稿用フォームは問合せ欄にあり 訃報の欄はない	新着の掲載は、こまめにやられている メニューからサブメニューはプルダウン 「この記事を読む」で全文表示される 行事予定はカレンダーで表示される 年間行事が一覧表示 クリックすると日時等詳細表示 会長挨拶 思い出の部屋 学院歌集DVD 周年記念行事 広島学院50年の歴史の掲載 各期同窓会だより 各期同窓会だよりの情報をお知らせします だけで、個別記事の記載はない。 会員活動、クラブOB会便り 翠友会ゴルフ大会や地域・職域支部 の欄の記載とダブルのものも多い。 事務局通信 会費納入について、会費納入口座番号 を案内している 会員専用ページ IDとPASSWORDで入るページ 公式FACEBOOKあり 翠友会のFacebookにての情報発信を希望 される方は一旦、翠友会事務局 (info@suiyukai.com)に送信をお願い致し ます。事務局で内容確認の後、Facebook にアップさせていただきます。 翠友会メンバーリスト(ML) 翠友会事務局からの情報発信専用のツール 訃報の欄はない	非常にメニューが多い 同窓会則、主要活動、入会状況 会報PDF、会長挨拶、同窓会役員 泰星の歴史と理念、同窓会歴代会長 学校の歴史、校歌、など ほとんど全て網羅されているが、学校の記事 と思われるものも多い メニューからサブメニューはプルダウン 泰星会公式サイトもある 泰星会グループのFACEBOOKあり 新着情報は投稿月での検索ができる 同窓会会報はPDFですと保存 同期会報告は写真入りで掲載 校歌PDF&VIDEO、カトリック聖歌もあり 泰星メンバーリスト、泰星ブログあり 訃報の欄はない

「リニューアル画面」
を提示して、ご審議
頂くことをGOALと
した「工程表」の確
認を行った。

第2回特別委員会
(10月21日)
(1) 今回のホー
ムページリニューア
ル作業とリニューア
ル後のホームペー
ジの日常運営の委
託に関し、前回候
補として挙げた二
社からの提案、見
積額等を比較。開
発と日常運営支援
との両方を提供で

一般サイトと会員専用サイトの切り分け等、今後の検討課題
を整理した。

(3) 今後リニューアルを進める際の作業委託先(システム
会社)の選定を検討。①現行EACONプロバイダーと、②栄
光学園HPのリニューアル作業を手掛けた会社と、2社を候
補とした。候補先2社の概要は以下の通り。

- ①EACONのプロバイダー
株式会社 イーストゲート
東京都新宿区市ヶ谷本村町3-28
設立: 2005年3月1日
資本金: 20,000,000円
営業種目: ソリューション(ASP/
ソフトウェア)の企画、運用、開発
- ②栄光学園のホームページのリ
ニューアルを請け負った会社
株式会社 イメージサイエンス
東京都港区西麻布1-7-9
設立: 1970年3月2日
資本金: 20,000,000円
従業員: 45名
営業種目: 1. 映像及び音声に関
する各種コンテンツの企画、制作、配
給、販売、2. 展示会等各種イベン
ト、博物館等に係る映像の企画、制
作、運営、3. テレビ番組及びテレ
ビCMの企画、制作、4. WEBサイトの
企画・制作

(4) 最後に、2018年5月の総会に

きる(株)イメージサイエンスの採用となった。

(2) 検討過程において、(株)イメージサイエンスからは、
再構成後のサイトマップ案、トップページ更生案につき、イメ
ージ画像などを提示、具体的な提案説明があった。
リニューアルのポイント

現在は会報に載っていることを分散し掲載しているものが
ほとんど。今後は会報をダウンロードさせることで情報を棲
み分ける。これにより、全体的に情報を整理し直し、再構成
を行う。

(3) 今回のこの提案書について議論し、次のような意見
表明や疑問の提起があった。

特別委員会「繋がるプラットフォームP/T」の作業スケジュール
-2018年5月総会での「新ホームページ」披露と承認を目指して-

特別委員会・常任委員会	作業項目
2017.9.9 第1回	現行ホームページへの認識を揃える = 2013年度のHPリニューアルのコンセプトを確認 今後のリニューアル作業の進め方(工程表)を決めたい⇒ 作業依頼先(システム会社)を決める必要がある。
2017.10.21 第2回	作業依頼候補先(システム会社)と初期段階の契約 現行ホームページ・EACONのリニューアルに対する企画・提案書作成を依頼する契約 ⇒ ①これは大きな金額にはならない ②これが、リニューアル本体契約に必ず繋がるということでない *何が出来そうか、ある程度の概要説明を受けて決定 *この契約は部長会で決めて、常任委員会に事後報告とした
2017.11.25 第3回	作業依頼候補先(システム会社)から「企画・提案書」の説明を受ける 現行ホームページの問題点、EACONとの接点他他般的に改善点の指摘とそれらに対するリニューアルの企画・提案について
2017.12.16 第4回	「特別委員会」の後、「常任委員会」 「特別委員会」 前回の「企画・提案書」についての追加質疑 作業依頼候補先(システム会社)から本体契約の見積提出 ⇒ 検討 「常任委員会」 これまでの経緯の報告 作業依頼候補先(システム会社)との本体契約締結の審議 ⇒ 承認 *費用は全額来年度予算に計上し、支払い
2018.1.14 第5回	作業依頼契約先(システム会社)から、リニューアル過程の報告、その報告を基に、メニュー、サブメニュー等の内容について議論
2018.2.10 第6回	「特別委員会」の後、「常任委員会」 「特別委員会」 作業依頼契約先(システム会社)から、リニューアル過程の報 告を基に、メニュー、サブメニュー等の内容について、議論 「常任委員会」 進捗状況の報告、審議の必要な事項あれば、審議承認を頂く
2018.3.10 第7回	作業依頼契約先(システム会社)から、リニューアル過程の報告 その報告を基に、メニュー、サブメニュー等の内容について、議論 ⇒ そろそろ、リニューアル画面の全体像が見られる段階
2018.4.21 第8回	「特別委員会」の後、「常任委員会」 「特別委員会」 リニューアル画面全体の総め 「常任委員会」 纏まったリニューアル画面を開覧、審議 ⇒ 総会上程の承認 今後の維持・管理の委託先を選定 ⇒ 予算
2018.5.12 総会	リニューアル後の「新ホームページ」を映写、審議 ⇒ 予算と共に承認 今後の維持・管理は委託先の選定の報告 ⇒ 予算承認

①トップページのうち、EACONに関する議論
EACONは名簿機能に特化して残す方向
EACONの連絡機能が役に立たないとの意見
システム面より個人情報保護面の問題、会員の自己管理
の動機づけの問題でもある。リニューアル作業とは別けて議
論する必要がある

②トップページのうち、FACEBOOKに関する議論
記事の投稿などの機能も含め、会員のHPへの関心を高
め、参加を促進する大きなポイント。これから本格的に、専
門的に議論を深める主要課題

③トップページのHOME、活動・会報等主要部分に関す
る議論

公開サイトと会員専用サイトの区分については今後の重
要な課題になる

会員専用サイトは必要か、必要であれば、どう対応でき
るのか

何を、この「鍵付」に入れるのか？

その場合の「鍵」はEACONのID、パスワードでよいの
か？

システム技術、費用、個人情報対応など多面的な検討が
必要

兄弟校各校のホームページはこの「鍵付」は少ないと思
われる

過去記事はどこまで、残すのか？どのような形で残すの
か？費用対効果で方法も考えるなど、これも費用面から大
きな課題として議論が必要

*特別委員会日時:10月21日(土) 12:00~14:00

出席:山田会長、増木副会長、前山事務局長、島崎活動サポ
ート部長、高橋広報部長、内藤32期常任委員、大須賀39期委
員、石田51期常任委員、取纏め:青木総務担当

第3回特別委員会(11月25日)

(1)前回の特別委員会で説明のあった(株)イメージサイ
エンス提案のトップページ構成案と再構成後のサイトマップ
案全体について、兄弟校のHPも参考にしながら、項目ごと
に詳細に見直した。

①トップページ構成案について

母校の様子を伝えるもの、即時性のある情報、利便性の
ある情報で構成。

②再構成後のサイトマップ案

HOMEの後に、同窓会の基本情報、活動・会報、訃報の
3つの柱で纏め直してある。

また、会長挨拶や同窓会の基本的な情報、サイトのご利
用にあたって等あるべき情報も整備(*要支給)する。

今回の提案は、こういう言う考え方を基本としたものであり、
これは第一回特別委員会での他校HPの比較等の議論を
基としており、大きな乖離はない。強いてあげれば、① 会

則、プライバシーポリシー、日本イエズス会校同窓会連絡協
議会、事務局の勤務日、総会、常任委員会の記載。②訃報
の取り扱い。これらに関しては、作業の進捗に合わせて柔
軟に要望を取り込んでいく。

(2)公開サイトと会員専用ページとの区別について

沢山の会員に見てもらおうということを考えると、「公開」の方
が良い。いちいちログインするとなると面倒がる会員もいよう。
コンテンツの中に、非公開にするべきものが多いと言うなら
別だが、今までの議論でも「決算の数字」ぐらいか。それで
あれば、PDFからその部分を削除して載せることで対応で
きる。原則として、「公開サイト」のみで、当面、会員専用「鍵
付」ページは設けないという方向で議論は収斂。

(3)過去記事の移行について、

通常、2~3年前ぐらいまでは、見れるようにするが、それ
を全部新しく入れ直すのか、それともリンクで繋ぐようにする
か、方法は二つ。新しく作り直すとなるとお金がかかる。リン
クで現存のサーバーに繋げるとなるとサーバー利用料のみ。
過去記事の内容は概ねALUMNIの記事で、4年以上遡る
場合リンクで繋ぐ方式にする。

(4)FACEBOOKの導入と運営方針について、

新たにFACEBOOKを導入することについて、二つの方
向が出された。

①ひとつは、栄光学園のホームページと同じものを考え
ている。学園のFACEBOOKは投稿するのは先生だけ。同
窓会で同じ様な運用をすると負担が大きすぎる。

②現在も非公開のFACEBOOKはあり、これを会員全員
の公開のものに変更することも一つの方法。しかし、現在の
参加者からの了解は難しいのではなかろうか。

いずれにも実現には多くの難点がある。当面は栄光学園
ホームページと同じものをはめ込んで運用し、同窓会独自
のFACEBOOKについては、会員からの反応や意見を聞き
ながら、今後の課題として時間をかけて作り上げて行く。

(5)EACONの今後について、

名簿機能特化、そのために必要な工程を、確認しておく。
イーストゲートに昨年度修正をさせた現在の一覧画面でも、
一桁台の表示の修正とか逝去者の取り扱いなど、未だ修正
を要することが残っている。「WEB版名簿」としての形を整え、
そのうえで、再度、会員に協力を呼びかけ、登録情報の充
実を着実に促進する必要がある。

*特別委員会日時:11月25日(土) 12:00~14:00

出席:山田会長、関根副会長、前山事務局長、高橋広報部長、
内藤32期常任委員、大須賀39期委員、米村43期常任委員、石
田51期常任委員、取纏め:青木総務担当

第4回特別委員会(12月16日)

(JR横須賀線架線事故。遅延や欠席者多く、会議時間大
幅短縮を余儀無くされた)

(1) 再編成後のサイトマップの要支給項目作成についての確認

2018年1月14日以降2月と4月にある常任委員会にチェックポイントを置きながら、どんな段取りで進めるかについて確認。

再生後のサイトマップ案の同窓会基本情報、活動・会報、EACONの使い方、ご利用にあたって等新設項目の作成を誰が行うか。例えば、会長挨拶、これは会長、年間スケジュールは総務部、会費は、財務部、会報ダウンロードは広報部など。

(2) FACEBOOK導入の詳細の検討について

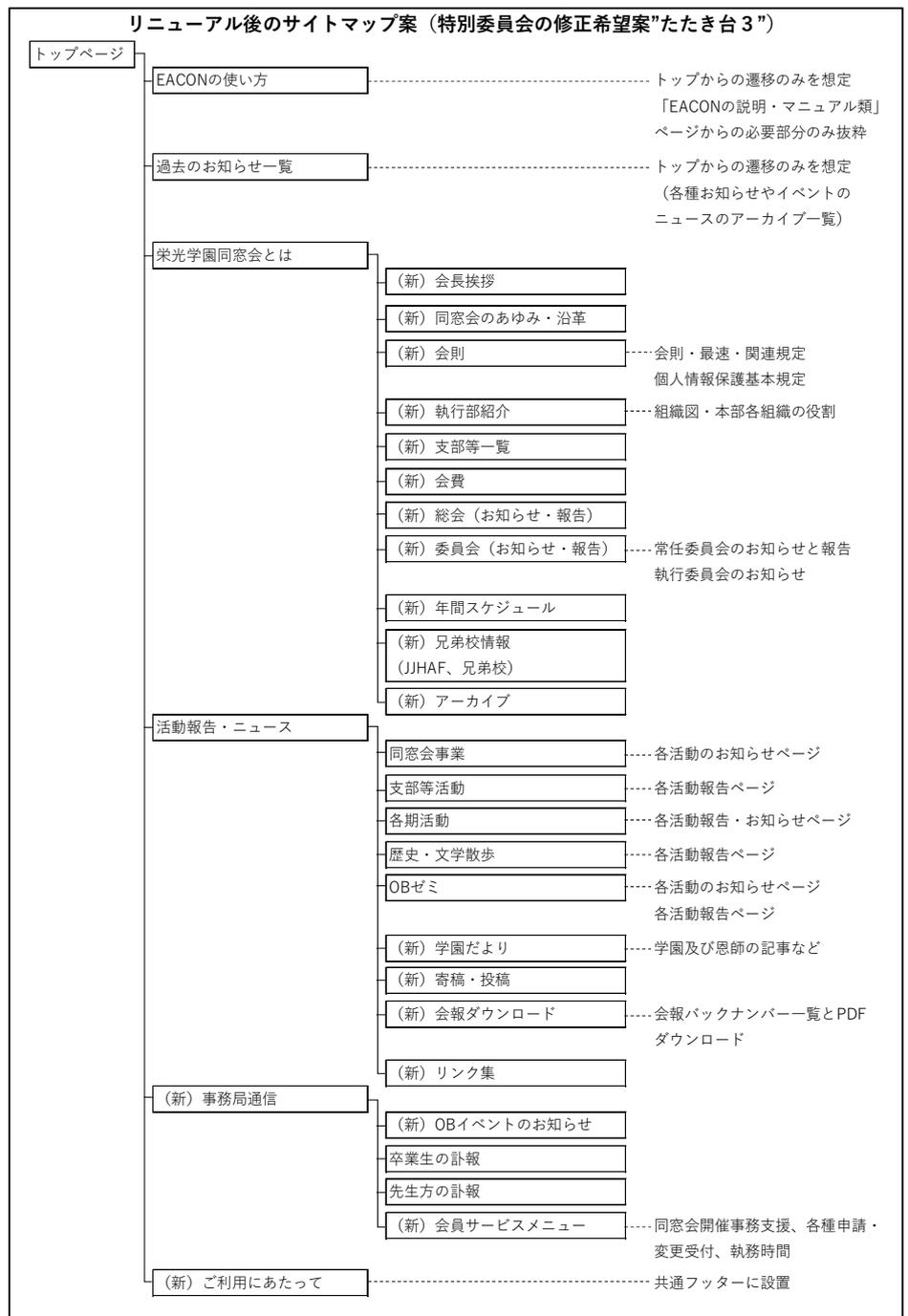
栄光学園HPのFACEBOOKのタイムラインはめ込みの問題点につき、学園のFACEBOOKに携わった(株)イメージサイエンスによく確認しておく必要がある。

(3) EACONを活用した『WEB版名簿』のリリースに向けた作業工程

リニューアルホームページのスタート時には、『WEB版名簿』の形式を整えたい。

*特別委員会日時:12月16日(土) 13:30~14:30

出席:山田会長、増木副会長、前山事務局長、島崎活動サポート部長、高橋広報部長、内藤32期常任委員、大須賀39期委員、取纏め:青木総務担当



第5回特別委員会(1月14日)

(1) (株)イメージサイエンスとの契約書類について、
前回常任委員会で、リニューアル作業を株式会社イメージサイエンスに委託することにつき御承認頂いたので、契約作業を進めている。契約書はウェブサイトリニューアル契約書、業務委託契約、それに秘密保持契約書。このうち、「秘密保持契約書」は、早急に調印する。「栄光学園同窓会ウェブサイトリニューアル(初期費)」契約書は、栄光学園のHPリニューアル時に締結した契約書を参考に作成する。

(2) (株)イメージサイエンスの2月~5月の作業スケジュール

株式会社イメージサイエンスから、今後の作業スケジュールの提出をうけた。同社はこれに従い、2018年5月総会でのリリースをGOALとして作業を進める。

(3) (株)イメージサイエンスから提出された、修正後のトッ

プページとサイトマップ案に関し要望事項等を議論

この要望を加味して再提出されたトップページのイメージが冒頭に掲げた図。

サイトマップ案に対する要望は多く出されたが、これらの点を反映した修正サイトマップ案は上の図である。

*特別委員会日時:1月14日(土) 13:00~14:30

出席:山田会長、増木副会長、前山事務局長、島崎活動サポート部長、近藤財務部長、取纏め:青木総務担当

第6回特別委員会(2月10日)

(1) 再編成後サイトマップの要支給事項の作成について
3月10日までに、各部担当部分について素案を作成することを確認。まず一度、コンテンツを入れたリニューアル後の枠組みの具体像を作る。3月10日以降は、それを閲覧し、議論し、修正していく段階に入る。

(2)記事の編集、コンテンツ内容について、色々なアイデアを議論。

12月の常任委員会で、多くの先輩委員から「箱や枠組みを変えるだけでは駄目。

会員が見たくなる、参加したくなるコンテンツの編集、それに頻繁な更新がキー。」とのご意見があった。これに関し、新たな企画・コンテンツの工夫、頻繁な更新の実現などについて議論した。

*特別委員会日時:2月10日(土) 13:00~14:30

出席:山田会長、関根副会長、増木副会長、前山事務局長、島崎活動サポート部長、高橋広報部長、近藤財務部長、内藤32期常任委員、大須賀39期委員、石田51期常任委員、取纏め:青木総務担当

2017年度OBゼミ

事業部

2017年度OBゼミは27期と37期が担当し、全23回が行われた。開催に当たってはシラバス作成や本格的なポスター掲示など、今後のOBゼミの参考となる取り組みがなされたばかりでなく、OBゼミの案内方法についても学園側と積極的な意見交換が行われており、2018年度も引き続き学園と同窓会とで意見を出し合っていく。

以下に実施日、ゼミタイトル、担当者の一覧を示します。

- ① 5月10日 "プロ野球独立リーグ創設によるローカルスポーツビジネスへの挑戦"
中村洋一郎(27期) 金融庁証券取引等監視委員会事務局市場分析審査課
- ② 5月17日 "インドでの工場建設一人駐在員の活動"
遠藤真一(27期) エーザイ株式会社総務・環境安全部
- ③ 5月24日 "トントントン、「営業」って何?"
河崎俊哉(27期) 日野自動車常務役員(国内営業担当)
- ④ 6月7日 "愉しんで仕事をするということ ~オリジナルビールブランドの立ち上げ~"
佐々木正幸(27期) ㈱ピアスタイル21代表取締役社長
- ⑤ 6月14日 "いのち、うまれる、いきる ~医療に携わるということ~"
榊原 秀也(27期) 横浜市立大学附属市民総合医療センター診療教授・婦人科部長
- ⑥ 6月28日 "私は国の役人です・・・ ~たくさんの夢にチャレンジしてきました~"

中川健朗(27期) 文部科学省大臣官房サイバーセキュリティ・政策評価審議官

- ⑦ 9月6日 "アジアビジネス30年 ~シンガポール・上海~"
大前 博(27期) 東京センチュリー国際部門(アジア地域担当)
- ⑧ 9月20日 "経済学的思考法のすすめ"
中島 隆信(27期) 慶應義塾大学商学部教授
- ⑨ 10月4日 "北海道のへき地で医者をするということ ~診療所での仕事とそこでの生活~"
森崎龍郎(37期) 幌加内町立幌加内診療所所長
- ⑩ 10月11日 "財務省ってどんなことしてるの?"
松村武人(27期) 財務省(現在は、独立行政法人国立印刷局 理事長)
- ⑪ 10月25日 "コミックの課題と取り組み 出版社・編集者は本当に必要なのか"
丸澤 滋(27期) 株式会社 小学館 取締役
- ⑫ 11月8日 "暮らし、街、産業を支える『ガス屋さん』の仕事 効率よく、かしこくエネルギーを使う社会を目指して"
村田恭夫(27期) 東京ガス株式会社エネルギーソリューション技術部
- ⑬ 11月15日 "人工衛星ビジネスと海外展開"
関根功治(27期) 三菱電機株式会社鎌倉製作所 主管技師長
- ⑭ 11月22日 "第4次産業革命に飛び込もう! ~IoTベンチャーの挑戦~"
菊池裕明(27期) ぶらっとホーム(株)(パナソニック)
- ⑮ 11月29日 "情報あふれるネット上でニュースを発信するということ~デジタル化が進む新聞社の仕事~"
野村雅俊(37期) 朝日新聞社 デジタル編集部次長
- ⑯ 1月10日 "ジュネーブから見た日本(WTOを中心に)"
矢野博己(27期) 世界貿易機関(WTO) ルール部 参事官(スイス・ジュネーブ)
- ⑰ 1月17日 "離島医療の現場 ~宮古島:Dr.コト一篇~"
増成秀樹(37期) 宮古島徳洲会病院 院長
- ⑱ 1月24日 "世の中の仕組みを作るということ~ITの力で社会を変える、システムインテグレータの仕事~"
佐野祥一郎(37期) ㈱NTTデータ品質保証部部長
- ⑲ 1月31日 "多文化共生社会に向けて"
山脇啓造(27期) 明治大学国際日本学部教授
- ⑳ 2月7日 "企業経営と不動産戦略 ~複数の専門分野を持つことの大切さ~"
松野健太郎(37期) 三井不動産(株) ソリューションパートナー本部 法人ソリューション部 ソリューション営

業グループ長

- ⑳ 2月14日 "スタートアップベンチャー企業を支援する仕事 ~エンジェル型ベンチャーキャピタルの仕事とは~"

本庄竜介(37期) グリーンコア(株)代表取締役
(公財)本庄国際奨学財団 評議員/UWC ISAK
Japan 評議員 / (一社)ビヨンド トゥモロー 理事
Endad・Honjo Ideal Girls School (バングラディッシュ) 理事長

- ㉑ 2月21日 "ソーシャルメディアによる生活変化 -フェイスブック、ツイッター、インスタグラムが世の中に与えた影響とは! ? -"

青山直樹(37期) (株)ニューオーダー代表取締役

- ㉒ 2月28日 "ブランディングとデザイン ~クリエイティブ業界の現場~"

川村貞知(37期) アートディレクター、グラフィックデザイナー

きるまで丁寧に説明してくれました。そして、僕もこの1週間を過ごす中で愛をたくさん感じ、他人を愛することが上達したのではないかと思います。

次にコミュニケーションについてです。これは僕が渡米前に一番心配していたことです。事前研修のおかげで少しは自信がついたと思っていましたが、実際に最初の食事タイムでは全然輪に入れず正直辛い時間が続きました。アメリカの生徒たちと先程述べたような関係性になるには実はかなり時間がかかっている…(笑)もちろん、最初から話しかけてくる人はほとんどいないし、アメリカ人同士での会話はものすごく早くて聞き取れないし、つけ入るスキを与えてくれません。自分から話しかけることの大切さを痛感しました。いつまでも受け身でいたら何も始まらないというのは普段の生活にも生かせる教訓になったと思います。それでも、うまく会話が始めれば、彼らは日本の事にすごい興味を持ってきて、住んでいる地域の事やスポーツの事で会話が弾みました。アメリカの生徒とたくさん話ができたことはこのプログラムの価値を何倍にもしてくれたと思います。だからこそ、ビビっていた最初の時間は今でも本当に後悔しています。悩む前に行動することは本当に大切です。

最後に、このプログラムに参加して本当によかったと思っています。受け身では何も始まりません。悩むなら是非勇気を出して参加してほしいと思います。

母校の様子、恩師のことなど

「学園通信」より

内山正樹 (9期)

1. ポストンカレッジ夏季研修

夏休みに第2回の「ポストンカレッジ夏季研修」に高1、2年生31名が参加しました。アメリカ各地の主にカトリック高校から集まった120名の高校生と共に、美しいキャンパスで5日間を過ごしました。68期(高1)大沢優介君の感想を紹介します。

高1 大沢優介 君

まずこの素晴らしいプログラムへの参加を許してくれた保護者、何度も助けてくれた先生方、事前研修をしてくださった上智大学の皆様、プログラム中ずっと気を配ってくれたメンター、共に参加した最高の仲間たち、ポストンカレッジの皆様本当に感謝しています。ありがとうございました。

5日間の講義の内容は本当に素晴らしいものでした。その中で一番印象深いのは初日の講義の中にあつた「自分が他人から愛されていると感じられる人は他人を愛することが上手い」ということです。今回のプログラムで学んだ様々なキリスト教の精神の根底にあるのはこの他人を愛することであると感じました。実際に、今回出会った多くのキリスト教徒の生徒・メンターは本当に愛にあふれていて、他人を愛することが上手いなあと感じました。全然英語が喋れない僕たちの話を真剣に丁寧に聞いてくれたし、僕たちが理解で

2. 飯館村研修旅行

避難解除されたばかりの福島県飯館村に、校長以下5名の教師の引率の下28名が3泊4日で訪れ、中学生を始め多くの方々と交流してきました。67期(高2)三戸健也君のレポートを紹介します。

高2 三戸健也 君

飯館村へ行こうと思ったきっかけは、友達に誘われてという感じだった。しかし、今から振り返ると、村の人の温かさに支えられた、とても意味がある研修だった。

まず最初に飯館中学校の生徒とバスケット。初対面というだけでなく心のどこかに地震や原発のイメージがあり、最初はどうやって接していいのかわからず、気を使ったり、栄光生で固まったりしていた。しかし、バスケットをしているうちに、いわゆる中学生のノリが感じられてきて、気がついたら一緒に心から笑いあっていた。まるでずっと前から友達だったみたいに。そこで思ったのが、自分は心のどこかに、福島の生徒たちは震災と原発でいろいろなものを失ったり、つらい思いをしているはずだから、普通の中学生とは違う、という先入観を持っていたということだ。他にも、福島の野菜はまだ危ないとか、放射性廃棄物の入った黒い袋は危ないとか、自分の勝手なイメージで生きてきていたことを実感した。そうして初日の活動を終え、夕方にお迎えのバスが来て帰ると

き、今までずっと仲良くしてきた友達が遠くへ帰ってしまうような感じがして、ものすごい悲しく、そしてもうすでにそんなにも彼らに愛着が生まれた自分に驚いた。手をふってバイバイするとき、明日また会えることは分かっているのに別れるのがつらい、と思えるほど仲良くなれたことが嬉しかったし、途中から原発だの地震だの忘れて、何のための研修旅行だったか忘れてしまうほど楽しんでた。

今回の飯舘村研修、確かに村のあちこちに黒い放射性廃棄物の入った袋が積み上げられていたり、人が少なかったりなど、実際に村を見ることで感じることも多かったが、僕にとってはそれより、この飯舘村研修で出会った人から学んだことの方が多かった気がする。特に個人的に良かったのが、夜の分かち合い。学んだことをそのままにしないで再確認できるし、普段話している人以外の人と話すことで、自分では考えていなかったこと、こんな考え方もあったのか、あの人あんなこと考えてたんだ、など発見がたくさんあった。また、この飯舘村研修旅行のサポートをしてくださった福島の小学校教師の武藤先生は、個人的にとってもお世話になった。飯舘村中学校の生徒と交流とは話が変わるが、僕たちは3日目にEDCAMPと言う、教育を題材にした様々なテーマの中から、自分の興味があるものを選び、同じテーマを選んだ人たちが集まって話をするという企画をしたのだが、僕の選んだ『良い先生とは？』というテーマのグループを仕切ってまとめてくださったのが武藤先生だった。そこでは、同学年や後輩、大学生や小学校教師、日野先生と、多様なメンバーがいる中、武藤先生は人生経験の浅い僕らの意見も真摯に共感してくれて、さらに武藤先生自身が話してくれた「どこ子も必ずその子しかもたないその子の光をもっている」という言葉には、なんて素敵なお先生なんだろうと感動した。個人的にとっても刺激をもらって、また話を聞きたいと心から思っている。

こうした素晴らしい旅行を企画、サポートしてくださった井本先生を含む先生方、武藤先生、会田先生、自分たちのために貴重な話をしてくださった飯舘村の方々、飯舘村中学校の生徒のみんな、一緒に行った栄光生やサポートしてくださった栄光の関係者の方々など、いろいろな人の力のおかげでこのような素晴らしい旅行になったと、とても感謝している。この飯舘村研修は、いわゆるボランティアのようなことはしなかったが、とにかく楽しかったし、自分の未熟さ、小ささみたいなものを感じた、とても意味のある研修だったと思う。

3. 関東高校将棋リーグ戦A級 三連覇！

囲碁将棋部が関東高校将棋リーグ戦A級で三連覇を達成しました。66期(高3)の森本賢志郎君の報告を紹介します。

高3 森本賢志郎 君

8月26日、僕は関東高校将棋リーグ戦に参加した。関東高校将棋リーグ戦とは、上から順にA級、B級、C-1級、C-2級の4つのクラスに分かれて行う5人一組の団体リーグ戦である。A級には栄光のほか、武蔵、開成、桐朋、浅野(今回は欠場)、筑駒と名だたる強豪校が在籍している。前回優勝校としての意地を見せようと高3の5人で出場した。

引退の時期をとくに過ぎており、将棋から離れていたので、厳しい戦いだった。

筑駒戦、桐朋戦、開成戦は、2勝2敗で残りの一局の結果によってチームの勝敗が決まるという展開だった。その最後の一局をすべてものにし、3戦とも3-2というスコアで勝つことができた。これはまさに僥倖だった。

こうして、苦しい試合が多いなか、全試合に勝利して優勝を果たすことができた。これで大会3連覇である。僕が高1、高2で優勝したときは、65期の先輩に支えられる形での優勝だったが、今回は66期の将棋部員だけで勝ち取ったものだったので、一番嬉しい優勝だった。最高の形で栄光学園将棋部を終えることができたと思う。

無理をして大会に出場し、一緒に戦ってくれた車谷、井上、山本、石井の4人には感謝している。

最後に、全試合あたたかく見守ってくださった石川先生には本当に感謝しています。ありがとうございました。

4. 栄光学園のルーツを訪ねる

68期聖書研究会が旧田浦校舎を訪問した記事が学園通信No.132に掲載されています。生徒がまとめた文章の一部と飯野習一先生(19期)の補足を紹介します。

この度、8月9日に栄光学園のルーツを探るべく、旧校舎を訪問することが出来た。旧校舎といっても大船にあったものではなく、最初期にあった田浦のものである。今でも校舎の一部は残っているのだが、海上自衛隊の施設に取り込まれているため、高森一徳さん(55期生のお父様、元海上自衛隊)のお世話でこの見学が実現した。

まず田浦校舎に向かうにあたって、当時の栄光生が通った道を歩こうということで京急田浦駅から徒歩で移動した。そこまで厳しい道程と感じなかったが、当時の通学路にも「栄光坂」と呼ばれていた(ちょっとした)坂があったりして興味を惹いた。

さて、一旦ここで旧校舎建立の経緯を軽く説明する。1946年の半ばに、イエズス会は、米海軍第五艦隊司令官デッカー大佐より、横須賀に中学校を設立するよう要請された。…デッカー大佐は、軍港の町横須賀を平和建設の基地にしようと考えて、旧海軍の土地にプロテスタントの学校とカトリックの学校と2つずつ設立することを計画したのである。(栄光学園50周年誌「より高く」より)。

またその田浦校舎は、旧海軍施設を改修して使用してい



田浦校舎時代の朝礼の様子

て、さらにその校舎の棟の一つを今もなお改修して自衛隊が使っているという、かなり使い続けられている建物である。おおもとが旧海軍施設なので、建物がとても頑丈であるようだ。その残っている校舎は中学校舎として使っていたらしいのだが、今回、その今日も使用している建物に入らせていただけた。古い写真とくらべてみると外見は改装工事によりかなり変わっているのだが、中に入るとその面影は残っていた。とある教室には黒板が残されていたり、扉が高かったり、教室がとても縦長だったり、大船の旧校舎での古びた雰囲気醸し出していた。思い返せば、なにかと大船旧校舎に似通っている気がするという感覚が非常に不思議で面白く感じられる。

旧校舎にはあまり長い時間いなかったのここら辺りになってしまいが、非常に貴重で大切な経験が出来、とても感謝している。

68期の聖書研究会担当が年に二回このような企画をします。今回は8名の生徒が参加し、壱岐、飯野が引率しました。また田浦校舎で生徒時代のほとんどを過ごされた、同窓会事務局の前山さん(13期)にも同行していただきました。

田浦校舎に残っているのは中学棟だけです。その後いろいろと手が入っていますが、建物のシルエットは変わっていないようです。当時の朝礼の写真と、今回撮影した記念写真を見比べてください。

デッカー大佐が設立を要請した四つの学校のうち、プロテスタント校の一つが横須賀学院、カトリック校の一つが栄光学園です。以前栄光で数学を教えた会田先生に二人の先生を紹介していただきました。キリスト教青年会の生徒たちともお話しすることができました。



かつての田浦校舎の前にて

カトリック三笠教会は栄光学園創立の翌年、1948年に今の場所に移転したそうです。横須賀学院のすぐ隣にあります。(飯野 習一)

アルカラ先生 お誕生会

中路喜之 (29期)

アルカラ神父が12月に米寿を迎えられ、栄光学園、清泉女学院の卒業生有志で、12月17日に上石神井のロヨラハウスを訪ねました。先生は、日本に来て(おそらく)55年…。栄光29期生の多くは2017年に55歳になった者が多く、感じるものがあります。



アルカラ先生、88歳のお誕生日

足の具合が思わしくなく、最近ではもっぱら車椅子での移動になっています。今回も直前まで入院されていたようですが、われわれの訪問をいつもの笑顔で迎えてくださいました。先生とよく歌ったということで、市村氏(栄光29期)の奥さまのピアノ伴奏で「ごらんよ空の鳥」を全員で合唱しました。われわれは歌詞が怪しかったりするのに、先生は完全にソラで歌っていらっしやいました。その後、それぞれが先生と歓談。体調のこともあり、大事をとって1時間足らずで先生は部屋に戻られましたが、その後もロヨラハウスのご厚意で少しの間出席者同士で先生との思い出話で盛りあげられました。先生のお人柄故、学年を超え、学校を超え、集まることができました！先生がいかにわたしたちのために、いろいろなことをしてくださったかということ改めて認識することになりました。アルカラ先生、ありがとうございます。



ロヨラハウスに集ったかつての教え子たち

痛みが少しでも和らぎますように。そして訪ねたときには、またいろいろなお話を聞かせて下さい。

この会を企画してくれたS君(29期)が体調不良で欠席だったのがとても残念です。先生は、われわれの訪問を歓迎して下さいます。ロヨラハウスに連絡の上、アポを取ってからお出掛けください。

先生の教え子はみんな、それぞれに頑張っています！アルカラ先生、88歳のお誕生日おめでとうございます。

上智学院追悼ミサに参列して

大島弘尚 (14期)

昨年11月11日、四谷のイグナチオ教会での上智学院追悼ミサに参列いたしました。2016年度より栄光学園などイエズス会の4中学、高校が上智大学の学校法人「上智学院」に合併されました。

カトリック教会の「死者の月」である11月に、「学校法人上智学院物故者追悼ミサ」が行われています。その1年間に亡くなられ上智学院の恩師、卒業生、学生らを追悼しています。

昨年は、栄光学園在学中に亡くなられた66期生加藤旭



上智学院追悼ミサの様子 (11月11日)

君も追悼されました。

今年は4名の上智大学学生と29名教職員(この中に栄光学園関係者として、村田良夫先生、本尾篤先生、薄田昇神父、小俣照信先生、安芸瑛一神父、ブルカ神父、逝去順)、162名の大学卒業生、84名の栄光学園を含む4中学高校の卒業生の追悼ミサを、イエズス会神父の共同司式により、100名を超える参列者のもと行なわれました。

追悼ミサ終了後、教会ホールにて司式司祭団とご遺族を囲む茶話会も準備されていたので、参加いたしました。

田浦時代にイエズス会中間期生として活動していたカーrier神父(元上智大学学長)にもお会いし、お話しすることもできました。

その後、教会地下墓所(クリプタ)のイエズス会神父方の墓所も訪ねました。

ここにはイグナチオ教会の信徒墓所の一面(S区)に、東京周辺で亡くなられたイエズス会神父の方々のご遺骨を逝去順に安置してあります。

安置されている栄光学園関係の神父様はアイウエオ順で以下の通りです。

生熊神父、ウルフ神父、大木神父、河野神父、小林神父、シュトルテ神父、薄田神父、富田神父、中村神父、ピタウ神父、兵頭神父、ヒーニー神父、フォス神父、ヘルヴェク神父、南木神父、森脇神父、吉川神父、リーチ神父。

このクリプタへはイグナチオ教会の主聖堂内部左手に地下への階段があり、9時から午後4時迄なら自由に参拝することができます。

教会事務所で神父様の名前から、墓所の位置も教えていただけます。

フォス初代校長らは東京郊外のカトリック墓地に埋葬されましたが、ここに改葬されました。

OB便り

創立70周年を記念して2期生囲碁部から栄光学園囲碁部に基盤セットを贈呈

東海林 修 (2期)

創立70周年を記念して2017年11月16日に2期の囲碁愛好家から囲碁部に基盤と碁石のセットを望月伸一郎校長先生立ち会いのもと、囲碁部顧問教員石川昌紀先生(38期卒・国語科担当)と囲碁部キャプテン平野翔太郎君(67期)に贈呈させていただきました。

全国大会にも出場した強豪である栄光囲碁部の更なる発展を祈念しています。



囲碁部キャプテン、顧問、望月校長と一緒に記念撮影

この碁盤セットは2001年に亡くなった2期の囲碁仲間の天野尚君の遺品でご遺族から2期生囲碁部に寄贈されたかなり豪華なもので2期囲碁愛好家のシンボリック的存在でした。

この機会に2期生囲碁の活動について若干紹介させていただきます。

2期生は1995年(平成7年)に60歳を迎え、多くの人が第三の人生を迎えました。「囲碁の会」、「釣りの会」、「歩く会」、「知ってる会」(2期生の仲間が現役の頃活躍した職務内容や趣味・活動などの紹介発表の会)の集いが自然発生的に始まりました。

囲碁の会は現在も継続中の集いで、1998年1月17日に「宇宙棋院」での最初の集い以来、今年で20年目を迎えました。初めのうちは湯河原の「杉の宿」、横浜駅周辺の「宇宙棋院」、「有心」などの碁会所で集まっていたのですが、2001年に村田さんのご好意で横浜駅西口の横浜銀行厚生施設のOB用のカルチャールームに会場を移して、無料で毎月第4金曜日の午後碁会が開かれて今年で18年目になります。年に2回、横浜銀行の箱根強羅、箱根仙石、湯河原の保養所などで宿泊の合宿で囲碁を楽しんできましたが、現在は湯河原で継続しています。

2期生は1954年(昭和29年)に91名が卒業生しました。そのうち囲碁の会には最初は20名ほどが集まっていたのですが、亡くなったり健康上の理由などで最近では10名前後の集いとなってきました。健康が続く限りこの会は続くものと期待しています。

追伸:昨秋の碁盤セットの贈呈には池添尚行君と東海林の2名が伺いましたが、その翌日11月17日に池添君が急逝されました。翌週の囲碁の例会での再会を確認していた私には驚きの一語しかありませんでした。お元気で退職後奥様と100か国近い海外旅行をされ、昨年も3か国の外遊をされてきたと伺っていました。昨年秋の「アラムナイ」88号に池添君が「歴史文学散歩:鎌倉の洋館巡り」を寄稿されていますが恐らくこれは彼の遺稿だと思います。またこの記事の写真左端の池添君の写真は彼の最後の写真ではないかと思えます。

田浦梅林

齋藤 肇 (7期)

好天の2月18日(日)田浦梅林を訪ねました。梅は2~3分でしたが多くの方が訪れていました。梅林の展望台から撮った70年前の面影が残る「栄光学園」のスナップです。

中学校舎(2階)は70年前と同じで一帯では最古の建物です。本校舎(3階)は形状は同じですが既に手が加えられているようです。中学校舎横には艦船(403)が接岸し、聖堂付近には鉄塔が見られます。

現在横須賀~田浦港クルーズもありますが当地区の再開発の話も出ているようです。



旧田浦校舎付近の遠景

余談

京急田浦駅に降り立つと「船越小学校創立130年」の大きな垂れ幕が目につきます。今話題の泰明小学校が140年ですので歴史を感じます。因みに「京急電鉄」は120年になると知りました。

波照間島游行

池添博彦 (8期)

人の住む島としては最も南で、北回帰線に近い北緯24度にある。石垣島より船で一時間で波照間に着く。横に長い楕円形の平らな島である。周囲15kmで267戸520人が住んでいる。

集落は少し小高くなった島の中央にあり、砂糖黍が主な生産物で、それから作られる泡盛の「泡波」は量が少ないため、仲々手に入り難く貴重品となっている。

十四世紀に八重山一帯を統治した遠弥計赤蜂(オヤケアカハチ)の出生した島で、福木の林の中に碑が建っている。近くに戦時中、ルソン島より丸木船で普天間に漂着した日本兵の碑があった。

昭和19年11月3日マニラ派遣隊24名はフィリピンに到着した。その後移動を繰り返して、4月にルソン島の東海岸に至った。ここで9名の隊員が丸木船に帆を張り、島を脱出することに決めた。椰子の実20個と僅かな食物、それに竹筒に入れた水と共に5月15日にルソン島を出発した。幸い6



池添さん(8期)

月4日に波照間に漂着したが、途中5名は亡くなり、4名だけが生還した。碑は彼らの出身地である山梨、福岡、

宮崎の関係者により建立された。

明和8年(1771年)石垣島で大地震が生じ、大津浪により島の人口の半分に当たる8千4百人が犠牲となった。震源地に近い白保地区では、海岸から数キロ離れた島の中に珊瑚礁の大岩が打上げられている。

琉球政府は白保地区の再興のため、波照間から418人の住民を移住させた。しかしその後飢饉やマラリアの蔓延が続き、住民は減少してゆき、明治30年には72人となり、昭和30年に村は消滅した。

やがて戦争が始まり、波照間への米軍上陸を怖れた八重山守備軍は、波照間の全島民1590人を西表島各地に移住させた。その時米軍に利用されるのを防ぐ目的で、牛や鶏の家畜は総て処分され、村民の持出しを禁止した。

西表の南風見田(ハエミダ)地区は1734年波照間から4百人が開拓に入った処であり、マラリアの大流行で大正9年(1920年)廃村になっている。

波照間港から少し登った処に学童慰霊碑がある。昭和20年4月8日島の住民323名が廃村になっていた南風見田の地に強制移住させられた。

マラリアの猖獗(ショウケツ)地域であり、森の中は食料もなく学童66名を含む84名が亡くなった。

波照間小学校創立90周年事業として、1984年7月16日に慰霊碑が建立された。西表島の波照間を望む南風見田海岸には、この悲劇を後世に伝えるため、命を落とした人の名を刻んだ忘勿石(ワスレナノイシ)の碑が建っている。

波照間の住民が強制疎開したのは、西表島の南風見田、古見(コミ)、由布(ユフ)島であり、いずれもマラリア汚染地区であった。疎開した全島民1590人中1587人がマラリアに罹り、その3分の1に相当する488人が亡くなっている。

波照間はマラリアに汚染されておらず、強制疎開がなければ、住民は命を落とすことはなかった。

八重山地方の石垣や他の島でも強制疎開により、マラリアで亡くなった人が多くいる。これを「戦争マラリア」による犠牲者と名づけており、八重山全体では昭和20年3月~12月の間で、全人口3万1701人中マラリア罹患者1万6884人で3647人が死亡している。

島の北側の海近くに下田原貝塚がある。3700年前のもの

で、波照間には古くから人が住んでいたことが解かる。

貝塚の東方にはシムスケーと呼ぶ古井戸がある。石灰岩の窪地から水が湧いている処でシムス村という集落の跡であるが、今は人は住んでいない。他の井戸が涸れてもここは水が湧いている。

言い伝えによると、村のペプタチパー(パーは婆の意)の赤牛が足で土を掻き分けて水を飲んでいたので、村人が掘ってみると水が湧き出たそうである。

島には旧藩時代、海上交通の監視をした火番盛と呼ぶ石造りの見張台がある。高さは5m位で、船の往来を報せるために烽火を掲げた。集落の中にある遠見台(火番盛)は原形を留めているが、西のホタムリ遠見台と灯台近くにあるカッチンヌプヤムリ遠見台は石積みが崩れており、登ることはできなかった。

島は砂糖黍島が広がっており、水不足に備えて大規模な貯水池が作られている。珊瑚礁からなる島はどこも水捌けが良過ぎて、水不足に悩まされている。

宮古島、大東島、黒島、鳩間島、竹富島も雨量が多い割には水が地下に溜らず、生活用水に苦労している。そのため宮古島や伊是名島では、地下に長い壁を設けて、浸透水の流出を防ぐ地下ダムが造られている。

貯水池は農業用に使われており、どれもかなり大型で、看板を見ると20億から28億円も費やされている。

南西にある貯水池の脇には、火番盛を模したかなり高い台が造られており、底名溜池展望台と名づけられている。昔の遠見台の2倍程の高さがあり、島の南側に続く石灰岩の崖を眺めることができた。

南東の高那崎に向かう途中に日本最南端の碑がある。小さな碑で余り目立たないが、訪れる人は多い。近くに星空観測タワーがある。周りには人家がなく、外灯もついていないので、星を見るのには最適の場所である。

港の横にニシ浜ビーチがあり、3月19日が海開きだった。早速浜に降りて泳いでみたが、少し冷たい感じがして、泳ぐ人も少なかった。

集落内の路の両側はサンゴの石垣とフクギの並木が続いている。福木はオトギリソウ科で、フィリピン原産の高木である。長楕円形で厚く艶のある葉を付けている。真直ぐ伸び、太くなるので、これを密植すると防風林に適している。

高那崎から南端の碑までは、石灰岩の岩礁地帯で崖が続いている。覗いてみると、濃いブルーの海が広がり、南国の海といった感じがした。

海沿いの道を歩いて行くと、アダンの木が繁っている。砂糖黍の島がどこまでも続き、傾斜地は石灰岩を並べた石垣となっている。黍の他の作物は見当たらないが、海外から安価な砂糖が輸入された場合、黍島はどうなるのだろうか心配になってきた。

同期会

7期会報告

奥田斐規（7期）

母校、栄光学園創立70周年の2017年に、大半が喜寿77歳を迎えた7期生恒例の同期会は、例年通り10月の第3土曜21日正午から横浜・中華街の老舗で開かれた。昼の開催は昨年からで、会場の萬珍樓は2013年以来同じ。

会創設の労をとってくれた恒久幹事長、及能茂道君によれば「この形で同期が最初に集うたのは昭和56年」とのことだから今年で37回を数える。

超大型の台風21号の前触れの雨が、出席を予定されていた稲田順一先生を足止めさせてしまったのは残念であったが、望月伸一郎校長にご参加いただいてこの日の出席は41人。

「6年前の卒業50周年に69人が集まって以来、出席者は年々減少して昨年は37人だったが、今年40人台に戻した」というのが、幹事の一人、齋藤肇君の報告。

いつもの通り、荻原佳紀君の司会で始まった会は冒頭に、この1年の間に鬼籍に入られた鈴木喜一、笠神潔、森田真の3君に黙祷を捧げ、原宏君の「日本人の死因の第3位は肺炎。その原因の7割を占める誤嚥に気をつけよう」とのアドバイスを伴った音頭で乾杯して開宴。

齋藤君によると、今年は葉書・メールで連絡の取れる120人に案内を出したところ「欠席」の返信があったのは58人。21人は音沙汰なしで、どうされているのか不明とのこと。欠

席の返事の中には「体調すぐれず」というものもあったが、出席者は皆、及能君の言う「健康を財産としている」と見受けられた。

毎回20人前後が参加しているゴルフ会（今年は10月5日）の幹事、石川俊克君が「7期のゴルフ会は米寿まで続ける」と宣言していると紹介した及能君曰く「やがては、老人ホームと一緒に、暮らすかい（クラス会）」。

「初めての出席ではないかと思うくらい久しぶり」の松永徹平君は「変わり果てた皆さん」と評したが、変わったのは「白くなったり、薄くなったり」のオツムの辺りくらい。5つのテーブルでそれぞれに美味を平らげ、美酒を酌み交わし、談論風発、久闊を叙するひと時を楽しんだ。

歓談の合間にスピーチに立ったのは、松永君の他に、同様に久しぶり参加の荒木健博君と小野寺法彦君。ゲストの望月校長は「きょうは寄付のお願いには触れません」と前置きして「皆さん喜寿おめでとうございます。7は聖書でも特別な数字」。そして、春に竣工した新校舎を紹介された。「我々の頃の田浦の校舎」思いを馳せた向きもあったのでは。

楽しい時間の流れは速く、2時間余りが経ったところで、いつものように金澤洋君の指揮で“懐かしい歌”の合唱。今年田浦時代の校歌「千里の波濤」を熱唱した。若き血潮の～うずまきかへる～7つの海を～

遠い昔、紅顔の美少年？の頃を思い出してちょっぴり感傷に浸る間もなく、石川君の音頭で一本締め。「来年また元気で会おう」と声を掛けあって、お開きに。



7期同期会（2017年10月21日）



11期同期会（2017年11月19日）

栄光学園11期同窓会の開催

花川泰雄（11期）

栄光学園11期の同窓会が、5年振りに2017年11月19日13時より、横浜駅西口ホテルプラムにて開催されました。

奥山幹事の映像資料を背景に往時の学園生活を偲びながら、53名の同期生が旧交を温めました。

仕事や介護、体調不良などで前回よりは出席者も10名ほど縮小しましたが、和気あいあいのひと時を楽しみました。

この集りの後、3ヶ月ごとに11日の昼から集まろうという話が持ちあがり、2月11日12時より、「なか一」の会が発足しました。（幹事は太田元夫、山口隆雄、山口力也）

15期同期会

小林 一（15期）

2017年11月4日（土）ホテルプラム（横浜）において、15期同期会が開催されました。出席者数は27名、卒業50周年、互いが入学してから数えると56年という長い付き合いと年月は改めて感慨深いものがあります。

数えではちょうど古希を迎える方々が多く、また、多くがサラリーマンのため、第二の（職業）人生も終了という方々が多い年ごろです。一人1分スピーチをしていただいたのですが、多くは健康（病気）の話、孫の話、第三の人生の話となりました。・・・といったところまでは、諸先輩の卒業50周年の様

子と変わらないと思いますが・・・！

わが15期の世代を振り返ってみると、団塊の世代の真ん中、栄光では高一のときに田浦から大船への校舎移転、大学では全共闘運動、社会人としての中堅の時代はバブル経済と、「戦争を知らない世代」のトップランナーとしては、結構時代の流れの節目節目に立ち会ってきたといえます。そういう意味では、参加者の発言それぞれがいわば時代の証言という感じでしたが、その中のいくつかを取上げると、

現在進行中の分野では、M社で原子力発電所開発部門の幹部だったY君、大学では原子力工学科を卒業してそのまま原発開発の道に進み、退職後もその分野の仕事を続けています。原発事故後は厳しい状況にはあるのですが、世界規模での原発開発を推進しようという立場のようです。それには、参加者からも若干の異論も出ましたが、それも含め、メーカー側の原発開発史の生き字引の考えを直接聞けるのはいい機会でした。

同期には、上場企業の現役社長が3人いて、その一人の大手ゼネコンT社のI君が参加してくれました。筆者とは野球部の仲間です。十年くらい前の同部同窓会でマラソン（湯河原マラソン）に誘ったところ、その後も走り続けて、営業上、社内コミュニケーション上、結構役に立っているようで、何よりと思っています。サラリーマン人生、やはり、元気は大事です。ちなみに、リタイヤ組を含めると、同期から上場企業社長になったのは5人、統計的にみると、結構特異なのではないかと思いますがいかがでしょう。

全共闘運動の時代は公害の時代でもありました。その中で、カネミ油症対策に今まで取り組み続けてきたのがS君。



15期同期会（2017年11月4日）

大学闘争中は、比較的近いところにいたので、今も同じ目線で活動を続けていることには敬意を表します。

いわゆるサラリーマン以外には、お医者さん、音楽家、料理店主などがいますが、皆、バリバリの現役で、残念ながら、今回は欠席でした。

栄光学園という、ある意味、特異の世界のOBとしては、結構多様な人生かと思えます。戦争ではありませんが、大学闘争の中、授業もないことも幸い(?)して、厳しい議論や(肉体)運動を通して、自分の思想や生き様をじっくり考える機会があったことも、影響しているのかと思えます。

同期会は、基本的に元気な人、元気に会いたい人が集まるものですが、出席者は、みな、いい顔しているのにホッとしました。常任幹事のS君が都合が悪く、急遽幹事代行を務めたのですが、同期Eメールの輪を運営しているT君達の全面協力と、栄光同窓会の案内郵送システムの力で、無事、事務処理を終えることができました。IT時代をサラリーマン人生の真ん中くらいでむかえた世代としては、ITにも感謝です。皆さま、有難うございました。次は傘寿を目指して頑張りましょう。次回は、11月3日(土)です。

26期卒業40周年同期会報告

島崎裕之（26期）
（写真提供）細田泰弘

2年ぶりの同期会を、前回と同様新年2日に横浜ベイホテル東急にて開催した。

今回はヤマシンこと山田真平君の司会進行にて開宴、梅津尚志先生、林恵津雄先生のご挨拶の後、この2年間に逝

去された3名の恩師熊野忠敬先生、本尾篤先生、岡野公二郎先生、また同期の阿部卓也君の父上である阿部忠也先生のご冥福をお祈りして黙祷をささげる。

迫嘉邦先生の発声で乾杯。出席者は同窓生35名に恩師3名の計38名。短い正月休みの中、前回の半数強であったが、新顔も3名加わり、海外勤務者も3名出席してくれた。各同窓生の近況報告(一人1分制限ではあるが)全員行うことができ、充実したひと時となった。

早期リタイアして悠々自適の生活に入るもの、退官して次の職を探しているもの、大病を何度も思いながら元気に生活しているもの。前回からは一昨年末の『OBゼミ打上』で10数名集まったものの、正式には2年ぶり。還暦が近づきそれぞれ変化が出ているのは否めない。

以下、写真を中心にご報告いたしたい。

梅津尚志先生(社会科)

組主任を担当したのは15期最初で26期が最後。よって記憶に濃い期であったとの事。その後清泉女子大に転じ教壇に立たれた。近年病気を患うものの、その後の治療経過は順調、至ってお元気でられる。今年傘寿。



梅津先生

林恵津雄先生(数学科)

40年を経てこれほど風貌が変わらない先生はいらっしゃらないだろう。栄光の後には横浜中学高校等に転じられ、簡



林先生

香選手らも教えた。進学に加えスポーツ選手養成という栄光とは異なった多様性の学校であったと語られる。70半ばで今でも水泳を続けておられるとのこと。



迫先生

乾杯の発声は迫嘉邦先生

御年70ウン歳になるも、筋トレを欠かさず継続。今も高一OBゼミ(スローフード)で週1回学園に通う。陸上部の指導も継続されている。各期や陸

上部のOB会も欠かさず出席され、翌日も24期と連チャンだったとのこと。

司会は当時も今もプリンスのヤマシン(山田真平)

迫先生から「当時の山田君の運動能力は全ての要素満点だった！」と絶賛される。



司会のヤマシン

28期同期会

吉野達夫 (28期)

去る10月21日の土曜日、超大型台風が接近して次第に雨脚が強まる中、毎年恒例の28期同窓会が、これも毎年恒例の横浜西口の「ホテルプラム」で開催されました。今年は、金子先生と飯野先生をお迎えして総勢26名の集まりとなりました。例年に比べると若干集まりが悪く、幹事としては会の盛り上がり気が気になるところでしたが、逆に少人数ならではの一体感が有り、参加者全員に一言ずつ近況報告をしてもらい余裕もできたし、これはこれで良かったのではないかと思います。

金子先生の開会のご挨拶で幕を開けた会は、歓談の合間に、飯野先生の解説付きで、栄光の新校舎完成までの軌跡を追う、という貴重なイベントも有り(旧校舎取り壊しから新校舎完成までを定点観測したスライドは一見の価値あります)、また今春初めて開催された27期との対抗スポーツ大



26期同期会 (1月2日)



(28期同期会 (10月21日))

会の結果報告を、各種目の参加者から、自慢半分言い訳半分のスピーチをしてもらい、恐らく来年も開催される対抗戦での雪辱を誓いました。

1年か2年に一度、この会でしか会わなかったり、あるいは卒業以来数十年振りに再会したりした友人たちとの話は尽きませんでしたが、2時間はあっという間に過ぎ、恒例のEIKO HIGH FOREVERの合唱となりました。今年は人数も程よくこじんまりしていたため、自然発生的に全員が一つの円陣を組んでの斉唱になり、意外に歌いだしてみると歌詞を覚えている自分に驚きつつ、皆の同程度に歳を取った顔を眺めながら、やはり古い仲間っていいな、とベタな感激をしてしまいました。

その後は、これまた恒例でほぼ全員が近くの居酒屋にシフトして、喋り足りないところの補充に努めました。それにしても皆よく飲みよく喋るのには感心しました。

当たり前のことではありますが、全員同じ歳の人間が集まると、人生において似たような節目に差し掛かっているわけで、50代も半ばを過ぎた今、話題は親の介護であったり、新しい会社で第二のサラリーマン生活についてであったりと、共感できる部分が多く、そこが同窓会の良いところの一つなのでしょう。

最後になりますが、今回お忙しい中出席して頂いた、金子先生と飯野先生には厚く御礼申し上げます。古い昔話だけでなく、今の栄光の様子を伺えるまたとない機会でした。それに加えて驚いたのは、お世辞抜きにお二人がお若いことでした。卒業して40年近く経ち、見るからに疲れてきている我々同期連中と比べ、お二人は当時ピカピカの

新任教師として我々の前に現れたこととそれほど変わって見えない、というのはどうしたことでしょう。そういえば同期でただ一人母校の教師になり、今も教鞭をとっている高田君もダントツで若々しいな、と。これは栄光だからなのか、教師という職業一般に言えることなのか、わかりませんが、羨ましいことは確かです。

また来年もぜひ参加してください。一同お待ちしております。

29期同窓会『なんとか、12月開催』

前田真孝 (29期)

中路喜之 (29期)



29期同期会(12月26日)

ここ数年、師走に入るか入らないかの時期での開催が定例化していたが、今年度はなかなか日程が決まらず、今年も決行！と決めたときには、もう場所もなく...新年会？との話も出たが、12月中旬によく案内することができ、開催にこぎ着けた。急な案内にもかかわらず、予定をやりくりしてくれ、最終的に合計11名が参加してくれた。

12月26日(火)の午後7時から、横浜駅西口にある居酒屋の個室は、あっという間に栄光時代にタイムスリップした。乾杯のあとは、暫く歓談。遠からず、近からずの距離で、それぞれの顔が見えることもあり、今回はちゃんと全員の近況報告。改めて仲間の活躍を知り、その後の話へとつながっていった…。図らずも、文系と理系の2テーブルに分かれたが、それぞれのテーブルでの話の内容は何でもあり！の栄光生に戻っていた。ただ、「健康」「健診」「子ども(孫を含む)」「教育」など年齢にふさわしい(!)話題の頻度が高かったのは成長の証！

それぞれが、久しぶりの仲間と多いに話し、食べ、飲んだ！間違いなく同じ歳なのに、それぞれを「バリバリ」に感じ、こうして卒業して40年近くが経っても、一緒に飲める「つながり」を愉しんだ。

あっという間に終了予定時刻となり、昨年の反省から、全体写真を撮って、一本締めでしめくくった。

仕事納めの前で、何かと忙しい時期になってしまった中で、集まってくれた同期の仲間感謝を申しあげる。開始1時間後に、駆けつけてくれた仲間もいたし、当日ギリギリまで調整してくれた仲間もいた。そして、個別に同窓会の情報を拡散してくれた多くの仲間のおかげもある。こうした暖かい「つながり」を感じ、1年に1度の同窓会…元気な仲間と会っ

て盛りあがるのが、29期生の中で「忘年会の1つ」として確固たる地位を築けたら…という野望を抱いた！

われわれも、とうとう四捨五入での「あら還」に突入した。来年も、おそらく晩秋か初冬になると思うが、同期の集まる機会を提供できるように委員一同頑張るので、是非参加を検討していただきたい。Ideaがあったら、お聞かせください。元気で、またお会いしましょう！

来られなかった仲間へ —32期同窓会報告—

蒲原豊治 (32期)

去る1月27日(土)、32期生の同窓会が行われました。当日はキエサ先生、迫先生、飯野先生、近藤先生、林直人先生にお越しいただき、60名を超える仲間が集まりました。しかし、52歳となった私たちは同期生であった林能英君と藤原次彦君を失っていますので、彼らに会うことは永久にかなわず、また、このたびの宴に来られなかった仲間も3分の2ほどいると聞きました。私は、仲間を代表してこの原稿を書くにあたり、レデスマ先生はじめお世話になった諸先生方、それから当日会えなかった多くの仲間へ届くようにこの報告を書きたいと思います。

当日、明るいうちから参加できる人は栄光学園の新校舎を見学するために午後2時に同窓会館に集合しました。でも会計の梅原君に夜の分の会費を払い受け取った名札を胸につけるまではお互いに相手が誰だか半信半疑。「オレって、この人たちと同じくらいジジイなの?」。私たちの学年に



32期同期会(1月27日)

は恐るべき生徒指導部長壺岐先生がいるので、2時間以上にわたって新校舎を案内してもらいました。高2の教室で出会った在校生に尋ねました。「壺岐先生、どう?」「おっかないです」。やっぱり。同窓会館に戻ってきたらもう4時過ぎ。会場の予約は5時ですからそろそろ行かなければ!ところが、同窓会館の鍵を閉めないと壺岐先生は出発できないのに、戻ってこない人が何人か。誰かが「ああ、そういえば何人か、〇〇〇吸ってると思う!ほら、あの頃と同じあの場所……。」コラコラ。

何とか5時には間に合って、先述の先生方を迎え、小枝君の名司会(!)で宴の始まり。はじめに靱山君・譲原君が藤原君の思い出を語ってくれて、その後原君の音頭で乾杯をしました。しばらくの歓談・食事の後、全員が一言ずつ挨拶をしました。

みんなの挨拶を聞いていた私の受けた印象は、久方ぶりに出会った私たち仲間は、52歳になった今でもみんな「戦っている」ということでした。戦っている場、戦っている相手は人それぞれでしたが、最初に入社した会社で引き続き戦っている人、とうに元いた会社を飛び出している人、「もうすぐ今の会社を退職します」という人もいました。「近々テニス部の後輩たちとテニスで対決するんだ!」というもある種の戦いですし、バンド活動を再開している、というのも新たな挑戦だと思います。戦っていない人はいないように思いました。それから昔の仲間たちは、驚くほど優しくかったです。直接話の出来た人はそんなに多くはなかったのですが、会場全体が優しさに包まれていたように感じました。私自身は、卒業後は会う機会のなかった人たちが多かったのですが、34年の月日を感じさせないくらいお互いの存在を認めあえる仲間が、こんなに大勢いることを本当にありがたいことだと思

ました。宴は5名の先生方のご挨拶も頂戴し、最後にみんなで記念写真を撮ってお開きとなりました。

当日はお越しになれなかった先生方、そして同じく会えなかった多くの同期の皆さん、また同窓会をしましょう。今度は誰と会えるか、楽しみにしています。

当日、幹事をしてくれた内藤君、壺岐君、その他の係の皆さん、ありがとうございました。それからわれわれの挨拶が長引いたため、宴会の時間を15分伸ばしてくださった広東料理「千馬」さん、ありがとうございました。本当はちょっと心残りだったんです。何しろみんな優しいから1時間以上も挨拶が続いている中、誰も料理を食べようとしません。手つかずで残っていたあの唐揚げ、うまそうだったな……。

支部活動

北海道栄光会総会開催 『国内地方支部』第一号へ!

活動サポート部長 島崎裕之 (26期)

2009年8月に設立総会を開催し、以降7年半ぶりとなる『北海道栄光会』第二回総会が2017年4月8日(土)、札幌東急REIホテルにて開催された。

今回の言い出しっぺは同窓会活動サポート部長として地域等の支部活動活性化の責任者である私自身。昨夏勤務先より札幌転勤を命ぜられ、『同窓会も札幌に支部を作れという事か』と、同期の柿澤君、蟹江氏(24K)、石井氏(29K)といった前回参加メンバーを集め、10月に早速初回幹事会



北海道栄光会総会 (2017年4月8日)

を開催。「設立後活動しているのか?」「いやあ公式には集まってはいないなあ。」どうも当時のアラムナイ執筆者であった松浦氏(28K)が札幌を離れて以来そのままであったようだ。「道内でもこんなに同窓生がいるのだから、恒常的に活動を継続したいね」「そのためには会則や役員も定め、『支部』として登録することだ。公式な組織とすることで認知度も高まるはずだ。」と説き、その後も立石氏(20K)、茂森氏(27K)、安藤氏(13K)を加え、計3回の準備幹事会を経て総会開催にこぎつけた。

集結した同窓生は、北見・網走・函館から駆けつけてくれた3名を含め26名、うち11名が現役学生、前日入学式だった4名の北大新入生は全員参加。来賓として道内(北大)出身の学園チャプレン萱場基神父、山田宏幸同窓会副会長(当時)(30K)にも遠路はるばるご出席いただき、28名もの大盛況となった。

17:00 立石氏の発案で開会前に『瞑目』、山田副会長の挨拶の後、茂森実議長の議事進行のもと、支部登録趣意説明、役員を選任、会則の制定を滞りなく決議。学園の近況報告で結び、総会は25分ほどで閉会した。

なお承認された役員は以下のとおり(敬称略)

会長 安藤厚(13K)、副会長 立石浩史(20K)、事務局長 茂森実(27K)、幹事 蟹江俊仁(24K)、柿澤宏昭(26K)、石井伸明(29K)、橋本崇弘(62K)、河田祥太郎(63K)、会計監事 島崎裕之(26K)。

他出席会員は、牧野成雄(7K)、高橋謙之祐(11K)、竹内裕一(19K)、木村純(21K)、西川眞(24K)、上原裕之(30K)、小野理(35K)、早稲田宏一(41K)、小林礼和・野島慎五・堀越秀・渡辺宗作(60K)、鈴木翔太郎・武田慎太郎・土井洋治・平柴大毅(64K)、河田雷(65K)。

総会閉会后、懇親会は立石副会長の開会の辞に始まり、萱場神父より乾杯の発声。以降飲食も皆同じ席に落ち着かず、あらゆるテーブルを見境なく回り、上は7期から若手は65期まで祖父～孫の幅広い同窓生全員がワイワイガヤガヤと話は尽きず。期別の自己紹介を行ったら2時間の宴はあっという間に過ぎる。『緑なす相模野』、『EIKO High Forever』、田浦世代の大先輩方も『千里の波濤』を斉唱、安藤会長の中締めでお開きとなった。

ただこの勢いだから当然これで終わるはずもない。二次会～そして更に三次会ではカラオケ。卒業間もない現役北大生たちが萱場神父と肩を組んでの大合唱、日付が変わるまで続く。まさに栄光学園の絆の象徴ともいえる光景だ。

以上のとおり意義深い総会・エネルギーな懇親会であったが、これはまだ(再)スタート。初めてこの大地に赴任・

進学する同窓生の不安を払拭するオアシスとしても、今後活動を継続することが大切である。だがこの時期になり、私自身が勤務先より「東京に戻れ」との辞令を受け、わずか8か月で泣く泣くこの地を去ることとなった。『会計監事』として役員に名を連ねたのは、最低年1回は総会出席のため来札する理由を残すことに他ならないが、遠方からも活動を見守ってゆきたいとの願いもある。地方支部の先駆者として『北の大地にEiko Boysあり』との発信を続け、他の地方や海外の支部設立・活動活性化というネットワーク構築に繋がっていくことを願わずにはいられない。

当方のチェック漏れで、アラムナイの掲載が半年遅れましたことをお詫び申し上げます。

次回の総会は、本年5～6月頃の開催を予定しております。連絡が行っていない道内居住者、道内大学進学者、道内転勤者の皆様は是非、

事務局 茂森実(27K)

E-mail: shigemori@aroma.ocn.ne.jp

までご一報ください。

栄光山岳部同窓会、天狗さんの10回忌に開催

南條俊二 (13期)

創立者のハンス・シュトルテ先生(天狗さん)の誕生日(10月15日)に合わせて毎年開かれてきた栄光山岳部の同窓会が今年は体育の日、10月9日に12・13期が幹事を務めて開かれた。天狗さんが亡くなられて10周忌を迎えた今回は、横浜駅隣の崎陽軒の会場に、例年よりも多い34人を集めての会となった。

まず、菅田栄一会長(5期)の「山岳部が解散して42年経ってなお、これだけの方々が集まってくるのは、天狗さんの存在の大きさを示している。山登りだけでなく、人生のさまざま



栄光山岳部同窓会 (10月15日)

まな場面でご指導をいただいた、人生の宝だった。この機会に改めて、天狗さんに感謝しつつ、会を進めたい」との挨拶に始まり、富山英昌氏(3期)の音頭で乾杯、渡辺勝利氏(12期)の司会のもと、出席者それぞれの天狗さんや山岳部、山小屋や、登山の思い出、現況などを語り合った。

最後に、現役時代、毎週全員で集まって唱えた「山の男の10の掟」と山岳部歌に声を合わせ、「澗沢の朝夕」「天狗隊の歌」などOB作詞の歌がこれに続き、最後に「Eiko High Forever」を高らかに歌い上げて、会を締めくくった。

栄光山岳部は1950年9月9日、横須賀の栄光学園構内の气象台跡で天狗さんと当時高校一年だった一期生有志による「天狗隊の歌」と「山の男の10の掟」の斉唱をもって始まった。以来四半世紀にわたって、丹沢から奥多摩、八ヶ岳、北・南・中央の日本アルプスの峰々などに400回以上の山行を重ね、1975年3月25日、天狗さんが南アルプス仙丈岳で24期生とともに部歌を歌い上げて解散するまで、一度の遭難事故もなく、大自然を教師に心と体の鍛錬を積んだ。

菅田会長があいさつで語られたように、数々の山行とともに天狗さんに鍛えられた経験が、私たちのその後の人生にとって大きな宝となっているのは事実であり、OBの中には、できればこれを単なる過去の歴史として風化させることなく、後世に伝えていきたい、という思いを持つ者も少なくない。現在、岩崎孝之氏(10期)を中心にその具体化が進んでいる。学園関係者のご理解、ご協力を期待したい。

なお、会場については、これまで横浜駅西口から歩いて15分ほどのホテル宴会場を使用していたが、参加者の高齢化に伴い、駅から至近距離に会場を移し、立食形式からテーブル着席形式に変えたが、価格、サービスともにリーズナブル、かつ同窓会コースを活用して費用を抑えることができ、多くの参加者から好評だったことを付記しておく。

平成29年秋 野球部OB会の集い報告

この日のためにグローブを新調した準備委員
吉永正信(20期)

10月15日(日)夕、野球部OB会の集いを学園聖堂ホールで行いました。

野球部OB会では、設立当初からOB間親睦の野球大会をやるうとアイデアが出ていましたが、29年度総会で実施を正式決定し、昼間は親睦野球大会、夕刻から懇親会を学園グラウンド、聖堂ホールをお借りして行うことで準備を進めてきました。

野球部OB会長の12期花井勝三さん、事務局長の17期坂本永造さん中心に20期代3名が加わり準備委員会を結成し、①チームは各年代のバランスをとるも同期は同一チームとし、3チームで巴戦を実施する、②30年度からの新規格ボールを購入し、試合で使用後に現役に寄贈する、③懇親会は聖堂ホールを借りて行う、などを取り決め、参加募集したところ、昼間で60名超、懇親会で50名超の参加申し込みがありました。

準備委員会としては、当日の天候がほぼ笑むことを切に祈っていたのですが、秋雨前線停滞の影響で前々日から当日まで終日雨模様で、結局、昼間の野球試合は中止、16時からの懇親会のみを行うことになりました。ところが、なん



挨拶する花井会長(12期)



野球部B会(10月15日)

と懇親会参加申込者ほぼ全員が出席し、50数名での盛やかな宴となりました。

参加者は、1期の徳永良輔さんをはじめ70歳代以上8名(10・12・13・14期)、60歳代21名(15・17・19・20・22・23・24期)、50歳代15名(25・27・28・29・32・33期)、30歳代以下8名(47・54・61期)、ゲストとして19期飯野習一先生、野球部吉田明生監督をお迎えし、旧交を温めました。

*40期代以降の若手OBからは昼間の部に多数の参加申し込みがありました。

花井会長の開会挨拶の後、乾杯は野球部を創った1期の徳永先輩に音頭をとってもらい、和やかに宴が始まりました。徳永先輩からは、栄光設立当初フォス校長らドイツ人は野球そのものを知らないのを部を創る時に苦労したとの話があり、皆「なるほど」と感心・得心しました。

現役への支援として、結局未使用の新規格ボール3ダースを吉田監督へ贈呈しました。準備した救急医療用具も32期野球部OBで長年監督をされた壱岐先生へ贈呈しました。壱岐先生からは、新校舎など新装なった栄光学園の紹介や田浦時代の写真を含んだ栄光70周年記念映像の紹介も併せていただきました。

また、全国大会に唯一出場した54期の辻居弘平さん・前田善博さんのスピーチ、指導者として名をはせた24期の柏崎弘治さんの熱いトーク、13期須須木永一さんと20期三浦修さんコンビから横浜弁護士会と栄光野球部OBとの定期戦の参加案内などを受け、最後に野球部顧問を長年していた飯野先生からもスピーチを頂戴しました。

参加者は、歳も顧みず野球をプレーしたい野球小僧ばかりですから、宴の途中から次回昼間の部の早期開催の声が多数上がっていました。締めの花井会長の挨拶の中で、「来年度になると思うが学園と調整し必ず野球試合を企画する。」との力強い宣言があり、皆で再会を約し旧交を温めた宴はお開きとなりました。

(追記)

本行事が成功裏に開催できたのは、12期花井会長及び



創部時の苦労を語る徳永先輩(1期)

17期坂本事務局長の企画力、全体マネジメント力のもと、準備委員として新規格ボールや用具の手配、ケー

タリング窓口を担った23期小林孝義さん、救急医療用具手配など医者立場で準備をした25期星山雅樹さんの両名、学園側の窓口として準備・手配に尽力くださった32期壱岐太先生、当日場の状況を的確に判断し懇親会を司会・進行した29期原田冬彦さん、写真班として貴重な写真を撮ってくれた20期の嶋津清隆さんたちのおかげです。紙面をお借りして感謝の意を表します。

第25回JJHAF杯4校サッカー対抗戦

栄光サッカー部OB会事務局 高橋正明 (19期)



サッカー部OB会 JJHAF対抗戦 (10月14日、15日)

四半世紀におよぶ節目の大会は神戸記念大会となりました。

今年も栄光、広島、上智福岡の各サッカー部OBが元気に六甲グラウンドに集合。

楽しい前夜祭と共に再開を祝し、接戦の末開催校六甲学院が優勝しました。

■前夜祭:平成29年10月14日(土)夜

場所:火鍋「はとや」

■対抗戦:10月15日(日)10:30~

結果は、以下の通り:

第1試合 六甲 9-1 広島+泰星

第2試合 栄光 4-1 広島+泰星

第3試合 六甲 1-0 栄光

第4試合 シニア全体で交流試合

※得点勘定は、独自のローカルルールを適用し、40歳代=2点、50歳代=3点、60歳代=5点とし、PKは年齢に関係なく1点とする。

■懇親会 - 表彰式:10月15日(日)16:00~

場所:阪急六甲駅前「六甲苑」

今年は、上智福岡(泰星)の遠征人数が少数だったため、

広島学院と若い泰星OBとの混成チームでのゲームとなりましたが、すでに顔馴染みのメンバーでもあり違和感なく対戦できました。

しかし、開催幹事校の六甲学院の結束が固く、昨年優勝した栄光OBとの接戦となりましたが、見事地元で優勝をもたらしました。

毎年の事ながら四校サッカー部OBが一同に会して交流戦を繰り広げる大会ですが、今年が25回目の節目の大会。参加者年長組は70歳を超えており、徐々に身体的な衰えも露呈して来ますが、毎年若手が少しずつ投入され年齢幅のバランスを取りながらなんとか優勝したいと願う訳ですが、よくも四半世紀にわたり継続できたと思います。

各校のメンバーも毎年同じではないのですが、全員すでに顔馴染みのように感じ、前夜祭では各校入り混じりながら思い出話に花が咲き、試合終了後の表彰式を兼ねた懇親会では、当日の健闘をたたえ合い、また来年の再開を誓う事になります。そこには、年齢差や卒業校の違いも無く、お互い楽しくサッカーができる幸せに乾杯するものですが、年ごとにそういう集まりに参加できるという幸せを感じるようになるのは不思議なものです。

インディアンクラブ総会

伴 孝 (22期)

去る平成29年10月21日(土)18:00より横浜駅西口「ホテルプラム横浜」において体操部OB会「インディアンクラブ(注)」総会並びに懇親会を、隔年開催の会則に則り2年ぶりに開催致しました。

総会では、小生の司会進行のもと(なんと8回連続14年)、初めに平岡慎雄会長(17期、これまた同じく8回連続14年)の挨拶があり、その冒頭において本会の終身名誉会長で初代体操部部長である熊野忠敬先生の訃報(平成28年6月19日御逝去、享年88才)が報告され、出席者全員で黙祷を捧げました。

熊野先生(昭和2年10月26日生)におかれましては、「栄光アラムナイ」でも既に先輩方が詳しく書かれておられますが、昭和24年(栄光学園創立が昭和22年)より60歳定年まで約40年間もの永きに渉り本校に奉職され、当然、体操部創設時からの部長(と言うか創設者)ですが、どうやら体育の授業を教わったのは1期から34期辺りまでのようです。

私も入学したての中1の担任が熊野先生で、入部希望アンケートの際「例年体操部の入部希望者が少なく困ってるんだ・・・」との言葉に絆されて「第2希望」について書いたのが運命の分かれ道!!(第1希望の硬庭部に入部していたら、大学硬庭部でもレギュラーが取れて、人生変わったら

うなあ?！・・・)あとで聞かされたのですが、「第2」どころか「第3希望」までに「体操部」の「た」の字でも書こうものならば、引き抜かれていたそうです。ともあれ、入部してからは、顔を出す度に笑顔で「怪我しないように、無理するなよ!」、合宿中に消灯時間が過ぎても用具室で遊んでいるのを見付けられても「明日の部活に差し障らないようにな!」、究極は、試合当日善行の体育館に単車で乗り付けたのがバレても「事故には気をつけるよ!」(確か当時「訓育主任」だったでしょうに?) 私にとってはいつでも庇ってくれて穏やかな優しい笑顔の印象でしかありません。

閑話休題。続いて私より前回総会後の2年間で2回開催された役員会報告、そして杉山正行会計担当幹事(31期)より「ギリギリの予算で会を運営している」内容の会計報告がなされ、承認を受けました。また協議事項では、現行役員全員の留任が可決承認されましたが、毎回同じ事の繰り返しですが、新規執行部への参入・・・でなければせめてもの他薦をお願いし、総会を終了しました。

総会に引続き行われた懇親会では、現体操部長である古賀慎二名誉会長に、近況報告を中心に御挨拶して頂きました。その中で注目されたのが、入部者が現高1から激減して一時「部自体の存続危機」に瀕したが、「バク転教室?」を開く等の工夫により、中1、5人の入部を獲得して暫く安泰との報告でした。やはりOBとしては廃部となると寂しいものです。

そのあとの乾杯では、出席者最年長である佐伯和良先輩(3期)に音頭を執って頂きました。それから若干の歓談のうち、「若者代表」として62期の後藤駿介君、大矢淳史君、伊藤健太郎君の3名に挨拶して貰いましたが、やはり若い人の発言は勢いや夢があって聴いている我々も元気付けられました。

続いて恒例ながら先輩から順に「近況報告」を兼ねて御挨拶をして頂いた処、これまた例年通り一人ひとりのお話しが永くて・・・しかし、今回は出席者が少ないこともあって、今回は12期迄の僅か6名で時間が押ししてしまいましたが、今回は私(22期)までの8名が挨拶出来ました。

締めとして、本会役員を代表して、幹事の斎藤裕之君(23期)に閉会の挨拶と「Eiko High Forever」を大合唱し、更にホテルの人に記念写真を撮って頂き、お開きとなりました。(が、その写真が「SDカード」の不具合で再生不能!携帯でも良いので2台以上で撮るべきと反省!!)

今回の案内状況は、送付数258名、返信数82名(出席21名、欠席61名)でした。また、新入会員は64期4名、65期1名ですが、残念ながら全員欠席でした。

インディアンクラブ総会は西暦奇数年の10月第3土曜に固定して開催することが会則の中に織り込まれており、次回開催は2019年10月19日(土)です。

今回、熊野終身名誉会長の訃報もあって、参加者の激減

が予想され、その結果によってはそれこそ本会の存続を執行部でも考えました。それでも21名(前回32名)の参加を戴き、勿論会員皆様の声も聴きながらですが、取り敢えず次回も企画するつもりでおります。是非とも多くの御参加を切にお願いします。

注:「インディアンクラブ」とは新体操でも使われている「競技用棍棒」のことで、栄光体操部OB会の正式名称として登録しております。

栄光同窓カトリックの会第17回総会開催

花川泰雄 (11期)

栄光同窓カトリックの会第17回総会は、2017年10月28日12時より望月伸一郎校長をお迎えして、同校のアロイジオ会館で開催されました。

冒頭、菅田栄一代表(5期生)より会の目的とこれまでの経緯について説明があり、カトリック信徒卒業生OBの会としてこれからも学園との連絡会を続けていきたいとの挨拶がありました。

続いて望月校長より学園の伝統と文化の継承、宗教活動の現状、イエズス会教育の継承と深化、具体的な教育活動などについて講演していただきました。要旨はインターネットブログ「かとりっく・あい」講演会の部に掲載の通りです。

なお、望月校長講演の後で、13時30分より第17回総会議事に移り、18年度の世話人体制を下記の通り決定しました。

世話人代表:菅田栄一(5期)、副代表:土屋至(13期)、大島弘尚(14期)、世話人:浜田利郎(6期)、福井敏之(8期)、花川(11期)、石渡(14期)、青柳(16期)、ヘルパー:

遠藤徹(8期)、高須保(13期)

当日出席者:菅田(議長)、遠藤恭、前川卓、徳永良助、東海林修、梅津尚志、浜田利郎、福井敏之、宮崎泰明、小金沢英夫、遠藤徹、花川泰雄、後藤典彦、野沢豊、高須保、石渡哲、大島弘尚、梁瀬正彦、壱岐太(32期栄光教員)

栄光同窓カトリックの会の講演会や黙想会の案内をご希望の方は、メールもしくはFAXで下記までご連絡ください。

事務局長 花川 泰雄

〒247-0064

鎌倉市寺分3-12-11

電話/FAX 0467-81-3703

hanakawa@mue.biglobe.ne.jp

2017年度バドミントン部OB会開催報告

柴崎柁武(59期)

2017年11月11日(土)、毎年恒例のバドミントン部OB会が横浜中華街「萬珍樓」にて開催されました。今回は5期から63期までの総勢28名が集まりました。8月に開催された栄光学園創立70周年記念コンサートでの勧誘をきっかけに、今回初めて参加された方もいらっしゃいました。

会を通して、絶品の中華料理に舌鼓を打ちつつ、先輩・後輩・同期との会話に花を咲かせました。

5期の山内浩行氏及び18期の服部秀昭会長のご挨拶から書会が始まり、26期の島崎裕之氏より同窓会の近況のご紹介をいただきました。

会の中盤ごろからは63期より順番に近況報告を行いました。

大学生生活の話題からお孫さんが産まれたお話まで様々で、幅広い年代の方々が集まっていることを実感しました。また、バドミントン部のみならず同期で活躍されている方々の動向も話題に上がり、栄光学園の同期間での繋がりやの強さも再認識することができました。

宴の終わりには、この秋の総選挙にて見事当選されました衆議院議員の43期三谷英弘氏の音頭のもと、三本締めにて会を締め括り、今後もより一層栄光学園バドミントン部の繋がりを強固なもの



栄光カトリックの会総会 (10月28日)



バドミントン部OB会 (11月11日)

としていくことを誓い合いました。

最後に、栄光バドミントン部OB会の今後益々の発展を祈念するとともに、以上をご報告とさせていただきます。

茅ヶ崎栄光同窓会 新年会 報告

金子 和 (27期)

茅ヶ崎栄光同窓会は1月21日(日)に新年会を開催しました。設立10年の節目にあたり、母校の望月伸一郎校長先生、山田宏幸同窓会長をお招きし、また、茅ヶ崎市内、寒川

町内、近隣の同窓生に広く声掛けした結果、2期から60期まで、総勢18名の盛会となりました。案内のハガキをご発送くださいました同窓会本部に感謝いたします。

本会は「茅ヶ崎を楽しむ同窓会づくり」を心掛け、そのひとつとして「茅ヶ崎 美味しいおみせめぐり」を企画し、総会懇親会・新年会の会場を毎回毎回かえながら、美味しい食べ物・飲み物を囲み、楽しい時間を過ごしております。今回は、茅ヶ崎駅南口から図書館に向かう途中の柳旅館の隣で、熊本県産の天草大王鶏を食材とする焼き鶏屋のSaCURAで鶏すき鍋コースを賞味しました。鍋も美味しいのですが、鍋のあとに出てくる親子丼が絶品でした。

参加されたすべての方からお一人ずつ立て、母校の近



後列山田宏幸(30期) 金子和(27期) 伊藤紀一郎(22期) 望月伸一郎校長 服部毅(12期) 松岡豊人(22期) 吉澤直樹(32期) 鬼頭孝明(60期)

中列 左より 前山茂雄(13期) 島崎裕之(26期) 外池仁(22期) 久芳靖(30期)

前列 左より 山本明德(7期) 山口洋一郎(13期) 佐々木 克己(21期) 酒井伸雄(2期) 石川英一(28期) 壺岐太(32期)

況、同窓会の近況、藤沢栄光同窓会のご案内、フォス先生のエピソード、田浦時代のお話をいただき、改めて母校への関心が高まりました。また、それぞれの方のご活躍ぶり、貴重な体験談をおうかがいして、励まされる気持ちがいたしました。とくに初参加の方、若手の方のお話が新鮮で、次回にどのような進展があるのか、興味が湧きます。人数が多くなっても、こうして参加者全員のお話を聴ける会として続くことを希望します。本稿では個々の内容には触れませんが、いずれは、ひとり3行寄稿など、茅ヶ崎栄光同窓会の報告をとおして、参加者全員のお話をアラムナイ誌やホームページ上に表現する手段を思案しております。

年内には10年記念行事として、茅ヶ崎を楽しむ茅ヶ崎海岸地引網会の計画を27期と共催で進めております。数年前に本会が主催したときは、網を引き揚げる、獲れた魚をさばく、焼く、配る、などなど、体力と人手を要する行事であることを勉強し、運よく地元自治会と27期の参加の助けで切り抜けました。今年は、本会の会員増に加え、他地域の同窓会の幅広い学年の皆様にお声掛けして、同窓生、関係者、ご家族の大勢が集まり、茅ヶ崎を楽しんでいただける地引網会になるよう、計画を進めたいと存じます。

歴史文学散歩

学園都市、花とせせらぎの道を行く 実施日：2017年9月26日（火）

合田純一（4期）

歴史文学散歩に初めて参加した。孫娘が今年卒業した慶応藤沢キャンパスを訪ねるとのことがきっかけ。親バカならぬじじバカである。9月26日小田急湘南台駅に集合、女性6名を含み、19名が集まった。その多くは互いに旧知の間柄、3期の佐伯さんが最長老だった。

駅前から2台連結の大型バスで慶応大学前バス停に、正門の外にある、新築の湘南慶応病院、慶応看護学校を見、学校内に。本校は藤沢市の北西部に慶応義塾大学湘南藤沢キャンパス(SFC)として1990年に設立された。日本の大学の中で先陣を切って大学改革に着手し、その多種多様なアイデアは多くに大学の手本となった。日本におけるインターネット(Japan University NETwork: JUNET)の起源としても知られている。



歴史文学散歩（9月26日）集合写真

学内は広大な敷地に各学部の建物が点在し、かつて息子が留学していたヨーク大学を思わせる(規模ははるかに小さいが)景観だった。昼食は学食で。私の学生の頃の学食のイメージとは違い、しゃれた食堂にしゃれた料理を堪能した。

続いて小出川の彼岸花コースの散策、大国橋から追出橋までの小出川に沿った約3キロメートルの彼岸花の群生、やや盛りを過ぎていたがまずまず見られた。この川は「花とせせらぎの道」として地元の「遠藤まちづくり推進協議会」が主体となって環境整備と日常の管理が行われているという。

ここから小高い位置にある腰掛神社へ、細い山道を通りたどり着く。さすがに先導してくれた三春さんの十分な事前の調査に感心する。その頃になると疲れが出、列が長くなり、後発の人々と離れてしまったが彼らは普通の道を通り、ともかくも無事に全員集まりまずは安堵した。

小出川の出発点に戻り、9月とはいえ快晴の残暑で掻いた汗を冷やし、次の目的地寶泉寺へ。山門からの長い階段を上って広い境内にたどり着く。客殿、本堂、観音堂、閻魔堂など多くの建物があり、境内の森は「ふるさとの森」として藤沢市の指定を受けている由。またそこには思いがけなく10メートルもの高さの大仏まであった。

そこを出てバス道に着き、やっと終わったと思ったら三春さん「まだありますよ」とのこと。何人かはそこから帰宅したが、一同は普通の住宅地を通り、普通の住宅の玄関に挨拶し、その庭の右手にある文覚上人供養碑を見た。

文覚は、もとは遠藤盛遠という北面の武士であったが、誤って摂津渡辺党の源渡の妻袈裟御前を殺してしまい、出家して文覚を称した。その後、神護寺の再興を思い立ち後白河法皇に強訴したことにより伊豆国へ流された。『平家物語』では……同じ頃遠くないところに流されていた源頼朝に、「謀叛を起こして全国を従えるように」と促し、ためらう頼朝に後白河法皇から賜った院宣を持ってきた。頼朝はこの院宣を掲げて挙兵したと伝えている。



文覚上人供養碑

ここでようやくバスにて湘南台駅まで、そこで終了解散。まだ3時台なので飲み屋は空いていない。そこで定番なのがそば屋、近くに6期鈴木氏のなじみのそば屋がありそこで乾杯。歩いた後はこれに限る。

等々力溪谷と史跡巡り

実施日 2017年11月18日（土曜日）

大島弘尚（14期）

より多くの方が参加できるように毎回曜日をずらして計画しています。

当日は曇天でしたが、東急線等々力駅に集合時刻に集まった8名でスタートしました。午後からは時々小雨に見舞われましたが、予定通り実施いたしました。

等々力駅から歩いて3分ほどの、「ゴルフ橋」たもとの広場で参加者自己紹介の後、早速溪谷に降りました。

等々力溪谷は武蔵野台地の南端を谷沢川が侵食してで

きた約1キロの23区内唯一の溪谷で、東京都指定名勝に指定されています。

参加された2期正木孝虎様は昭和29年よりこの近くに住まわれていましたので、昔の溪谷の姿を語っていただきました。

溪谷に沿って遊歩道を下ると、左手の崖地に古墳時代から奈良時代にかけての横穴群が見られました。3号横穴古墳は完全な形で保存され、入り口に近づくと、自動的に電気がつきガラス越しではありますが、河原石を敷き詰めた玄室を見ることができました。

この溪谷には多くの湧き水がみられ、溪谷中ほどの「不動の滝」にはかつて霊場として修験者も訪れていたそうです。滝の横の石段を登り真言宗「等々力不動尊」を訪れました。本堂は総檜造りの立派なもので桜の季節は賑わうそうです。

再び溪谷に降り、下流に進むと、丸子川と合流し住宅地となります。流れに沿って進むと多摩川の土手にぶつかり、さらに丸子川の上流に向かうと「善養蜜寺」に着きました。

山門の階段下で巨大な1対の石像が迎えてくれます。現在世界中で5つしかないほど珍しい、「かいだ」と呼ばれる火除けの神獣を型取ったものだそうです。本堂は鷗尾がのる立派なもので、カヤの大木が茂る境内には多くの石像もあったようですが、雨が降り出し早々に退出しました。

環状8号線の外側にあたる、野毛大塚古墳を中心に整備された玉川野毛公園を抜け、皆で環八沿いのそば屋で昼食を済ませました。

午後、小雨は止みませんでしたが、住宅地を進み上野毛カトリック教会を訪れました。この教会はカルメン修道会が設立し、私が栄光学園在職中に生徒の黙想会に利用させていただいた懐かしいところでした。

「五島美術館」の正門前を通り、横浜の聖光学院の姉妹校「セントメリー、インターナショナル スクール」の角を曲がり、江利チエミのお墓のある「法徳寺」、三味線のバチの形をした猫塚のある「行善寺」を巡りました。

玉川通りをくぐるトンネルで抜け、最後の目的地である「玉川大師」と呼ばれる真言宗「玉真院」に着きました。創建は大正時代だが、地下には100メートルにもなる、仏の胎内をかたどり300体の石仏をめぐる地下道がありました。

丁寧な案内書をいつも作り、案内して下さる三春さんに皆でお礼を述べて、予定通り3時半に二子玉川駅で解散いたしました。



歴史文学散歩（11月18日）

2018年度 歴史文学散歩コース

三春勝正 (6期)

① 風薫る横浜山手の洋館巡り

実施日:5月25日(金)

集合:JR石川町駅 南口 10時

昼食:お弁当or外食

解散:15時頃 距離:約6km

JR石川町発～プラフ18番館～外交官の家～ベリック邸～山手洋式公園～妙香寺～エリスマン邸～山手234番館～外人墓地～港の見える丘公園～大仏次郎記念館～イギリス館～山手111番館～フランス領事館跡地～元

日本は1854年から1860年にかけて欧米と修好通称条約を結び、外国人居留地の土地貸与と建物建築・通商活動を許可しました。横浜は日本最大の外国人居留地に発展し国際色豊かな都市となり、ホテル、教会、洋館はハイカラ文化の象徴となりました。この時期洋館のバラが奇麗です。

② 秋めく南下浦ぶらり旅

実施日:9月27日(木)

集合:三浦海岸駅(京急) 10時

昼食:お弁当or外食

解散:15時頃 距離:約6km

三浦海岸駅～(バス)～剣崎バス停～切支丹灯籠～劔崎灯台～福泉寺～福寿寺～三浦義村墓～金田漁港(昼食)～清伝寺～走湯神社～円福寺～白山神社～十劫寺～閻魔堂と岩船地藏～上宮田海防陣屋跡(解散)

剣崎は三浦半島東南端にある岬で、かながわの景勝50選に指定されています。

東京湾に出入りする航路の要所の一つであり、明治5年(1872)に劔崎灯台が造られ、現在も使用されています。恵那湾の干潟では四季を通じていろいろな生物を見ることができます。またこのあたりには三浦氏に関わる史跡が多く残り、三浦一族の棟梁となり、三浦氏の最隆盛を築いた三浦義村の墓などが見られます。

③ 六義園～駒込富士～吉祥寺周辺を散歩

実施日:11月28日(木)

集合:JR駒込駅 南口 10時

昼食:お弁当or外食

解散:15時頃 距離:約7km

このコースのメインは六義園と吉祥寺でしょう。六義園は、徳川綱吉の側用人・柳沢吉保が、綱吉から拝領した約2万7

千坪の平坦な土地に土を盛って丘を築き、千川上水を引いて池を掘り、自らの下屋敷として造営した大名庭園です。「六義園」の名称は、紀貫之が『古今和歌集』の序文に書いた「六義」(むくさ)という和歌の六つの基調を表す語に由来するそうです。

駒込駅～六義園～都電車庫跡公園～駒込公園～駒込富士神社～吉祥寺山門～吉祥寺山門～赤目不動～駒込大観音～白山神社～白山駅

このあたりから白山神社にかけては大小さまざまな神社仏閣が立ち並んでいます。中でも吉祥寺はひととき大きく、境内には有名人の墓などがあり、一見する価値があると思います。

④ 初春の古道 戸塚の鎌倉道を歩く

実施日:2019年3月30日(土)

集合:下飯田駅(横浜市営地下鉄) 10時

昼食:お弁当持参 距離:約7.5km

解散:15時30分ごろ

下飯田駅～天王森泉公園～俣野三叉路道標～神明社・俣野神社～観音堂～福泉寺～ウイトリツヒの森～龍長院～八坂神社～旧代官屋敷～五又路の石仏群～俣野別邸庭園～バスで藤沢へ

中世において鎌倉から関東の諸国をとおり信濃や越後、そして陸奥などの地方を結ぶ交通路で、いわゆる鎌倉幕府の御家人が「いざ、鎌倉」と馳せ参じた道であり、鎌倉時代から戦国時代までの関東武士の栄枯衰退の歴史を物語る道です。今回はそんな古道鎌倉道に今なお残る古き時代の遺跡の跡をたどりながら、下飯田から俣野までの道を歩きます。

以上2018年度も年四回の歴史文学散歩を計画いたしました。時間を作って興味のあるコースには是非ご参加ください。

<お願い>

尚、昨年の反省から、悪天候等による中止、順延など決定は前日夕方までに決定いたします。また連絡のために、まだはっきり予定が決まらない人でも、参加の可能性のある方は連絡先メールアドレス(最適)、または電話番号を同窓会事務局にお届けください。メールの方には各コース実施前にリマインドサービスもさせていただきます。

事務局休みの場合は三春まで直接お問い合わせください。

訃報 (2017年10月1日以降判明分)

先生

岡野公二郎先生(数学・5期)2017年9月18日

菊野俊熙先生(漢文)2017年12月15日

卒業生

田島直夫氏	(17期)	2016年
三浦章氏	(5期)	2017年2月5日
平林義則氏	(8期)	2017年7月22日
加藤佳之氏	(22期)	2017年9月9日
武内茂和氏	(4期)	2017年9月10日
神津哲氏	(8期)	2017年10月5日
守亮三氏	(11期)	2017年10月10日
作道宗二氏	(3期)	2017年11月5日
大澤秀人氏	(1期)	2017年11月12日
池添尚行氏	(2期)	2017年11月17日
石井雄三氏	(6期)	2017年12月26日
反町洋之氏	(30期)	2018年1月6日
桜井宏平氏	(5期)	2018年1月20日
野崎昂氏	(11期)	2018年2月1日
竹村寛重氏	(5期)	2018年2月3日
勝浦寛治氏	(2期)	2018年2月9日
岡晴世氏	(6期)	2018年2月9日
蒲原秀治氏	(1期)	2018年2月23日

謹んでご冥福をお祈りいたします。

お知らせ

第18回バドミントン部OBゴルフコンペのご案内

標記のコンペを下記のとおり開催いたします。

参加をご希望の方は、26K島崎

E-mail:hiroaya.40391gmail.com

Mobile:090-1660-5583までご返信ください。

なお、先着3組(12名)になり次第締め切りますので、早めのお申し込みをお願いいたします。

◆ 開催日時:2018年5月27日(日)

◆ 開催会場:ファイブハンドレッドクラブ

<http://www.500club.jp/overview/>

9:00～スタート

三島駅より送迎ありのため、ご希望の方は合わせてお申し出ください。三島駅 8:00出発の予定です。

宇宙飛行士 古川 聡さん(31期)特別講演ならびにコンサートのお知らせ

松原秀樹さん(29期)の紹介で友情の架け橋音楽国際親

善協会より、同協会が主催する交響楽団はやぶさによる「第3回演奏会～宇宙への招待」コンサートならびに古川 聡さん(31期)特別講演のご案内をいただきました。

◆ 開催日時:2018年5月6日(日) 14:00開演

◆ 開催会場:東京オペラシティ コンサートホール(京王新線初台駅東口直結)

曲目:ジョン・ウィリアムズ / スター・ウォーズ組曲、他

詳細は友情の架け橋音楽国際親善協会のホームページ <http://hayabusa-sym.com/concert.html> よりご確認願います。

オール栄光ゴルフコンペ2018を開催します!

母校70周年を記念してリニューアルしたオール栄光ゴルフコンペですが、今年も開催します。このご案内の主な目的は、まず皆さんのスケジュールに、8月26日(日)開催のゴルフコンペを加えていただくことです。開催規模、申込み要領、競技形式等は昨年と同様の予定ですが、詳細は後日改めてご案内させていただきます。

参加されたことがある方も、まだ参加されたことが無い方も、多くの同窓生・関係者の皆さんのご参加をお待ちしております。

◆ 開催日時:2018年8月26日(日)

◆ 開催会場:よみうりゴルフ倶楽部

<http://www.yomiurigolf.com/login/index>

〒206-081 稲城市矢野口3376-1 TEL.044-966-1141

小田急線 新百合ヶ丘駅より、タクシー15分

京王相模原線 京王よみうりランド駅より、タクシー5分

※賞品・賞金等のご寄贈・ご寄附を広く募っております。ご協力賜れます場合には、以下の連絡先までご一報を頂戴したく存じます。よろしくお祈りいたします。

「オール栄光ゴルフコンペ2018」事務局(今年の幹事は8期、22期) alleikogolf@gmail.com (@は半角の@に置換えてください)

● 次号(第90号):2018年10月発行予定。

● 投稿歓迎

同期会や支部のイベント報告、個人の体験記などの投稿を歓迎します。標準サイズは文章1,200文字程度+写真1枚。同窓会事務局宛てメールまたは封書でお送りください。

メールアドレス: admin@eikoalumni.org

住所:(本号第1頁にあります)。

● 編集後記

89号の編集に取り掛かってから受領した記事がありましたが、やり繰りしたものの掲載を断念。春発行の号は2月末、秋発行の号は8月末が記事の締め切りになります。